千葉県八千代市

道地遺跡ｅ地点・
平 戸 台 8 号 墳

－資材置場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００９

ＹＡＭＡテック株式会社
八 千 代 市 教 育 委 員 会

凡　　例

1．本書は，八千代市教育委員会が平成20年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。本書に収録した発掘調査は，資材置場建設に伴うもので，地権者であるＹＡＭＡテック株式会社の委託を受けて実施した。遺跡名は，道地遺跡ｅ地点及び平戸台古墳群，所在地は，千葉県八千代市平戸字西ノ上306の一部ほか，である。

2．調査及び整理は，以下のとおり実施した。確認調査は，平成19年度市内遺跡調査事業として，国庫及び県費補助を受けて実施し，その結果は，平成20年度の市内遺跡発掘調査報告書に掲載した。文献一覧は第３章末にある。

確認調査　期間　平成19年11月15日～平成20年２月19日　面積　上層210㎡，下層20㎡/2,032.52㎡

本 調 査　期間　平成20年４月22日～平成20年８月13日　面積　618㎡

本 整 理　期間　平成20年９月24日～平成21年３月31日

3．グリッド№・遺構№は，数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。

グリッド　G　　古墳　T　　竪穴住居跡　D　　土坑　P　　溝跡　M

4．実測図中のスクリーントーンは，以下のとおりである。

遺構：焼土　粘土　遺物：赤彩　黒色処理　須恵器

5．出土した遺物のほか，写真・図面等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

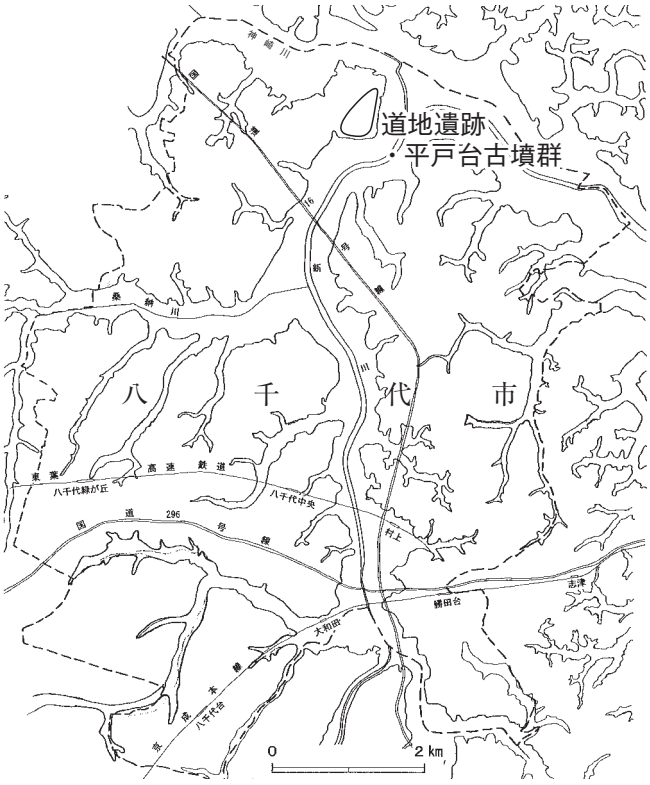
6．鉄鏃の実測・写真撮影については，有限会社新成田総合社に委託した。

7．人骨の分析については，国立科学博物館人類研究部の梶ヶ山真里氏に委託し，その結果は第４章に掲載した。

8．本書の図版作成は，常松成人・山下千代子・原田雪子・植田正子・長田京子・見神光恵が行い，編集・執筆・遺物の写真撮影は常松が担当した。

9．発掘調査から本書刊行に至るまでに，下記の機関及び諸氏にご助言・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（五十音順・敬称略）

千葉県教育庁文化財課
つくば市教育委員会
八千代市郷土歴史研究会
石橋　充
大塚初重
白井久美子
成田忠志
村田一男
蕨　由美



道地遺跡・平戸台古墳群の位置（１：100,000）

目　　次

凡　例
目　次
挿図目次
表目次
写真図版目次
第１章　調査経過及び概要
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の概要……1
　第３節　遺跡の概要……2
第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　縄文時代……4
　第２節　弥生時代……9
　第３節　古墳時代以降……11
　第４節　平戸台８号墳……15
第３章　成果と課題……28
第４章　人骨の分析……30
写真図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　道地遺跡ｅ地点・平戸台８号墳位置図……2
第２図　道地遺跡ｅ地点・平戸台８号墳遺構配置図……3
第３図　縄文時代遺構実測図……4
第４図　縄文土坑出土遺物実測図……6
第５図　その他の遺構等出土遺物実測図（１）…6
第６図　その他の遺構等出土遺物実測図（２）…7
第７図　１Ｄ住居跡実測図……9
第８図　１Ｄ住居跡出土遺物実測図……10
第９図　その他の遺構出土弥生土器実測図……10
第10図　各時代土坑実測図……12
第11図　１Ｍ溝跡・２Ｍ溝跡実測図……12
第12図　溝跡・グリッド等出土遺物実測図……14
第13図　平戸台８号墳測量図・調査状況図……16
第14図　平戸台８号墳周溝内等高線……17
第15図　平戸台８号墳断面図……18
第16図　平戸台８号墳出土遺物実測図……19
第17図　石棺実測図（１）……21
第18図　石棺実測図（２）……22
第19図　石棺内遺物出土状況……23
第20図　石棺内出土玉類実測図……24
第21図　石棺内出土鉄製品実測図（直刀）……24
第22図　石棺内出土鉄製品実測図（鉄鏃）……25
第23図　８T-Ｐ２・７Ｐ・５Ｐ各土坑実測図　…27
第24図　７Ｐ・５Ｐ各土坑出土遺物実測図　……27

表　目　次

第１表　３Ｐ土坑出土縄文土器観察表……5
第２表　８Ｐ土坑出土縄文土器観察表……5
第３表　その他の遺構等出土縄文土器観察表……5
第４表　縄文時代土製品・石器計測表……8
第５表　１Ｄ住居跡出土遺物観察表……10
第６表　その他の遺構出土弥生土器観察表……10
第７表　１M溝跡出土遺物観察表……13
第８表　２M溝跡出土土師器観察表……13
第９表　グリッド等出土土師器観察表……13
第10表　グリッド等出土石製品・土製品・鉄製品計測表……13
第11表　８号墳出土遺物観察表……17
第12表　石棺内出土玉類計測表……23
第13表　石棺内出土鉄製品計測表……26
第14表　７Ｐ土坑出土鉄製品計測表……27
第15表　５Ｐ土坑出土遺物観察表……27
第16表　八千代市における古墳出土人骨一覧表……29

写真図版目次

図版１　３Ｐ土坑，８Ｐ土坑，１Ｄ住居跡，１Ｐ土坑，４Ｐ土坑，１M溝跡，２M溝跡
図版２　１M溝跡，２M溝跡，平戸台８号墳　周溝
図版３　平戸台８号墳　周溝　墳丘
図版４　平戸台８号墳　墳丘　石棺
図版５　平戸台８号墳　石棺
図版６　平戸台８号墳　石棺　掘り方，８Ｔ-Ｐ２土坑，
図版７　７Ｐ土坑，５Ｐ土坑，遺物写真（１）３Ｐ土坑，８Ｐ土坑，その他の遺構等-１-
図版８　遺物写真（２）その他の遺構等-２-
図版９　遺物写真（３）１Ｄ住居跡，その他の遺構，１M溝跡，グリッド等，平戸台８号墳
図版10　遺物写真（４）平戸台８号墳石棺内，７Ｐ土坑，５Ｐ土坑

第１章　調査経過及び概要

第１節　調査に至る経緯

平成19年９月，ＹＡＭＡテック株式会社代表取締役山口公一氏（以下「事業者」という。）から平戸字西ノ上の資材置場建設事業に係る，埋蔵文化財の取扱いについての確認依頼が提出された。確認地は，現況山林で地表面観察はできなかったが，周知の遺跡範囲内であり，古墳と考えられる塚状の盛土があり，近隣で遺構･遺物が検出されている。このため，八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）は，確認地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることを同年同月に回答し，埋蔵文化財の取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は開発事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなり，同年10月事業者から文化財保護法第93条に基づく土木工事の届が提出された。事業者が伐採を行い，その進捗に合わせて同年11月15日に調査を開始した。

確認調査　確認調査は，平成19年度の市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて，平成20年２月19日まで行った。なお，伐採木は一時的に対象地内に集積せざるを得ず，これらを搬出する間，平成19年12月５日～平成20年２月12日まで調査を中断した。対象面積2,032.52㎡のうち上層210㎡，下層20㎡を調査し，その結果，古墳１基，縄文時代の土坑３基，奈良・平安時代の溝跡２条，近世の土坑１基などを検出した。古墳は，平戸台古墳群の第８号墳である。確認調査の結果については平成20年度市内遺跡発掘調査報告書（市教委2009年）に掲載した。

本調査　確認調査の結果，618㎡について本調査の協議範囲とした。古墳部分の現況保存などを検討したが，事業者の計画変更はできず，本調査を実施することとなった。事業者から平成20年３月24日付けで八千代市に調査依頼書が提出された。市は４月９日付けでこれを受託し，市・市教委・事業者の三者間で埋蔵文化財の保存措置に関する協定を締結し，618㎡について記録保存のための発掘調査を実施することを取り決めた。さらに４月15日付けで八千代市と事業者間で発掘調査の委託契約を締結し，４月22日に本調査を開始した。調査期間は，当初６月30日までの予定であったが，古墳主体部の箱式石棺が発見されたため，９月30日までに期間を延長する変更契約を６月30日付けで締結した。

第２節　調査の概要

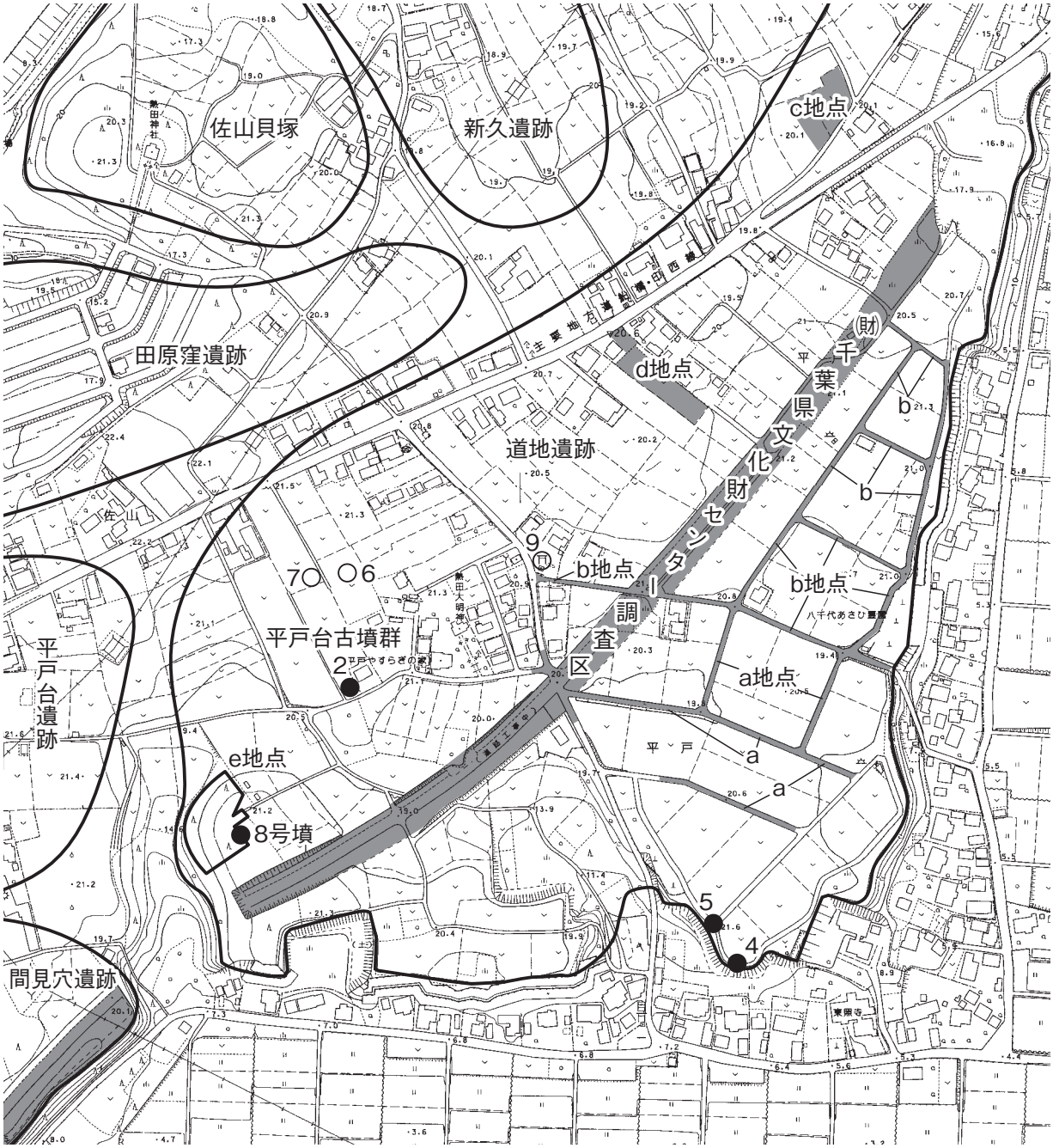
本調査は，618㎡を対象として行った。重機による表土除去後，精査を行い古墳周溝及びその他の遺構を検出した。周溝，墳丘の掘削調査を進めつつ，その他の遺構の調査を行い，それらの終了後，墳丘下に検出された竪穴住居跡の調査，古墳主体部の箱式石棺の調査という順序で進めた。写真撮影と図面作成，光波測定器によって記録をとりながら完掘した。

調査経過は，４月22日機材搬入，環境整備，ベルト設定，現況写真撮影を行う。23日～24日重機による表土除去を行う。23日～５月１日遺構検出のための精査をし，遺構検出状況写真を撮影する。４月30日石棺を発見する。５月７日周溝掘削調査を開始する（～６月４日）。５月８日墳丘掘削調査を開始する（～７月３日）。16日墳丘下に竪穴住居跡を発見する。22日基準点測量，杭打ちを行う（委託作業）。26日土坑・溝調査を開始する（土坑：～６月27日，溝：～７月３日）。６月10日１Ｄ住居跡調査を開始する（～７月15日）。27日墳丘土層調査を終了する。７月４日箱式石棺調査を開始，遣り方を設定する。７日蓋石の実測を開始する。７日～８日１Ｄ住居跡上の立木を伐採し（事業者協力），根を撤去する。９日蓋石を撤去，開棺する。土砂の流入を確認する。市広報広聴課が取材する。10日石棺内の掘削を開始，人骨・鉄鏃・直刀が出土する。11日～石棺外の掘り方調査も並行して行う。15日～石棺内掘削，清

掃，写真撮影，図面作成，取り上げを繰り返す。17日市広報広聴課が再度取材する。18日骨格全体が出揃う。大腿骨の数から成人３体以上と判明する。25日管玉が出土する。27日見学会を実施する（参加者60名）。28日直刀を取り上げる。29日ガラス玉・臼玉・棗玉が出土する。30日石棺内調査が終了する。31日掘り方の調査を開始する。８月８日側壁石を撤去する。11日床石を撤去する。12日掘り方を完掘する。12日～13日機材を撤収する。13日石棺石材を搬出し，調査を終了した。

第３節　遺跡の概要

遺跡の立地　道地遺跡は，市域の北部，新川と神崎川とが合流する地点を東に臨む台地上にある。この台地の南半の広大な面積を占めており，平戸台古墳群が重複している。標高は，17～22mである。



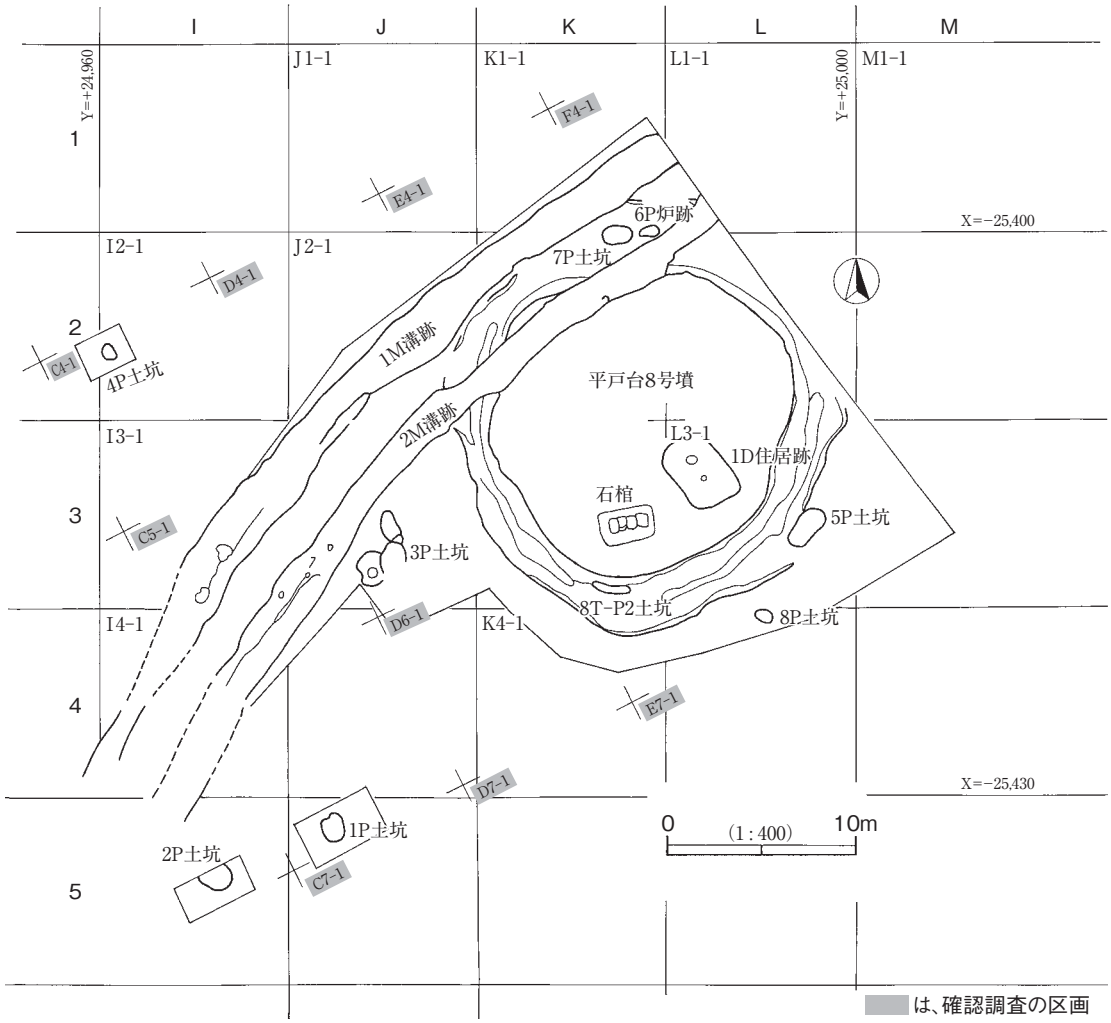
第１図　道地遺跡e地点・平戸台８号墳位置図（S=１：5,000）

これまでの調査　道地遺跡では，昭和57年度・60年度に遺跡南東部の農道敷設に伴って発掘調査が行われ，弥生時代後期の住居跡37軒，古墳時代中期の住居跡３軒などが検出された（ａ地点・ｂ地点）。平成６～９年度，14～15年度には主要地方道船橋印西線の建設に先行して財団法人千葉県文化財センターによって発掘調査が行われ，弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡79軒・環濠１条，古墳時代中・後期の住居跡10軒，古墳２基などが検出された（千葉県文化財センター2004年・2006年）。平成18年度には遺跡北部（ｃ地点）と県道船橋印西線（旧道）の南に接する地点（ｄ地点）が調査され，ｃ地点では縄文・弥生・古墳各時代の遺構が検出され，ｄ地点では遺構は検出されなかった。

平戸台古墳群としては，昭和46年に崖面に箱式石棺が露出したため，１号墳として緊急調査が行われた。平成９年度及び11年度には２号墳の発掘調査が行われ，箱式石棺とこれに一部を破壊された弥生時代後期の住居跡１軒が調査された（市教委2001年）。箱式石棺からは，人骨15体分と副葬品（直刀２，鉄鏃10，鉄環２，銅環４，勾玉５，切子玉７，小玉205など）が出土した。

このように台地上には，縁辺部を中心として，弥生時代後期～古墳時代前期を中心に古墳時代後期に及ぶ集落跡が濃密に分布し，古墳が散漫に分布している。

今回のｅ地点は，遺跡の南西端の標高19～21ｍの山林である。調査範囲内に平戸台古墳群の第８号墳（平戸台８号墳）が存在する。



第２図　道地遺跡e地点・平戸台８号墳遺構配置図

第２章　検出された遺構と遺物

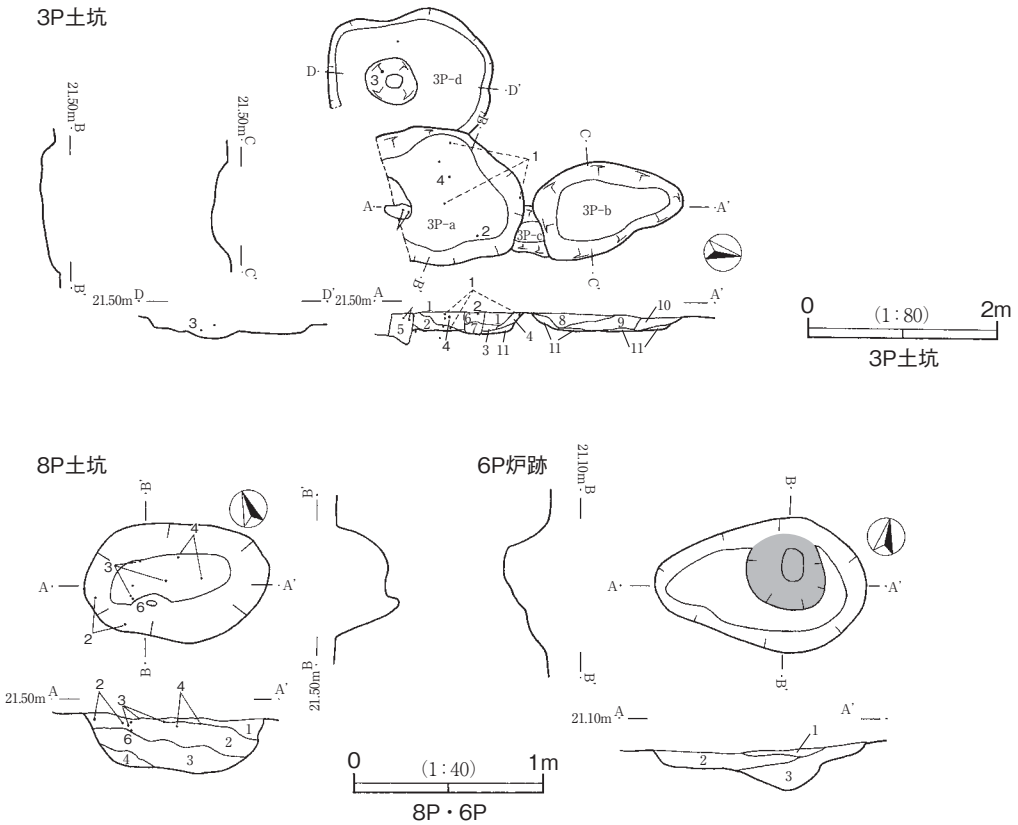
今回，検出された遺構は，古墳１基，竪穴住居跡１軒，土坑９基，溝跡２条である。遺物は，土器・土製品・石器・石製品・鉄器・鉄製品・小礫など合計1,977点であった。他に炭化材・人骨・箱式石棺とその石片などが出土した。以下，時代ごとに記すこととする。

第１節　縄文時代

遺構は，土坑２基・炉跡１基を検出した。縄文時代の遺物は，遺構内外から土器類483点以上，石器３点，チャート剥片１点が出土した。時期は，早期・前期・中期・後期と考えられる。

１　土坑（第３図～４図）

３Ｐ土坑　位置　Ｊ３G。**平面形態**　４基の重複。不整形。**底面形態**　不整形。**規模**（cm）ａ：140×140，深さ23，ｂ：158×101，深さ18，ｃ：50×30，深さ17，ｄ：173×112，深さ10～18。**覆土**　ａ：１：7.5YR３/３（暗褐色土）。褐色土斑状。２：7.5YR３/３。１より緻密。３：7.5YR３/２・３/３・４/４（黒褐色土・暗褐色土・褐色土）。まだらな色。４：7.5YR４/４・４/３（褐色土）。５：7.5YR３/３。６：7.5YR３/３。７：7.5YR３/３・４/３・４/４混じり合う。ｂ：８：7.5YR３/３。４/３斑状。９：7.5YR４/３。緻密。10：８：7.5YR３/３。４/３斑状。緻密。11：全掘時掘り広がり。**出土遺物**　合計26点。内訳は，縄文土器20点，弥生土器２点，土師器４点。４点を図示した。**特記事項**　凹み状遺構が４基集中する。縄文土器が主体なので該期としたが，縄文土器のみでなく，各時期の遺物が出土しており，所属時期については判断が難しい。



第３図　縄文時代遺構実測図

８Ｐ土坑　位置　Ｌ４G。**平面形態**　長楕円形。**底面形態**　長楕円形，小ピットあり。　**規模**（cm）98×63，深さ28～35。**覆土**　１：7.5YR３/３・４/３（暗褐色土・褐色土）。径１㎜以下黄色スコリアをまばらに含む。２：7.5YR４/３。３：7.5YR４/４・４/３（褐色土）。４：7.5YR４/４。**出土遺物**　17点出土，すべて縄文土器。６点を図示した。

２　炉跡

６Ｐ炉跡　位置　Ｋ１Ｇ～Ｋ２G，８号墳４区。**平面形態**　楕円形。**底面形態**　楕円形，有段。底面の窪み部分が赤く焼けている。**規模**（cm）112×72，深さ９～21。**覆土**　１：7.5YR３/３（暗褐色土）。焼土粒子・炭化材片を微量含む。２：7.5YR４/３（褐色土）。焼土粒子・炭化材片を微量含む。３：５YR３/４（暗赤褐色焼土）。径５㎜焼土ブロック・炭化材片まばらに含む。**出土遺物**　無かったが，８号墳４区からは縄文土器が多数出土している。

３　その他の遺構等出土遺物

縄文土器は，８号墳から317点，１M溝跡から53点，２M溝跡から73点，その他遺構外などから多数出土した。前期後半～中期初頭と後期後葉が中心である。

第１表　３Ｐ土坑出土縄文土器観察表

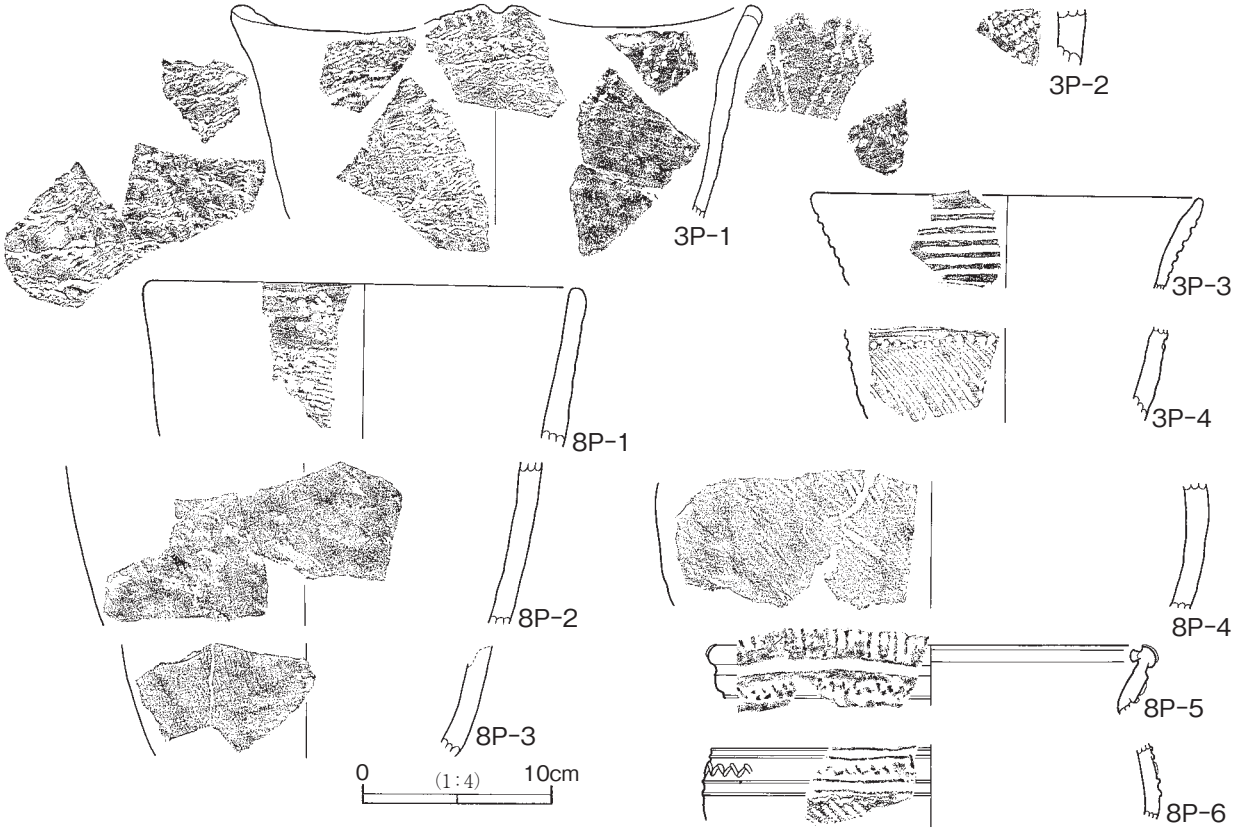
遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	３Ｐ-７　８ 12 Ｊ３G　８Ｔ３区　２M-28　確認調査D５-２～４G	波状口縁 深鉢	口縁 ～胴上	口内径26.4	○粗砂・赤褐色粒子・細砂 ◎やや脆い～良 ●外）灰褐色，暗褐色，橙褐色，黒色，褐色，灰黒色，淡褐色　内）橙褐色，橙色	波頂部二股，口唇上に縄の圧痕（ＲＬか）。 外）Ｓ字状結節文多段。無節縄文。 内）ナデ，撚糸Ｌ圧痕，結節文。	中期初頭
2	３Ｐ-６	深鉢	胴		○細砂，粗砂　◎良 ●外）淡褐色　内）淡褐色，淡灰褐色	外）ＲＬ縄文。 内）ナデ。	加曽利Ｅ式
3	３Ｐ-21	深鉢	口縁	口内径20.2	○粗砂少，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色　内）褐色，橙褐色	外）横方向沈線７条。 内）横方向ナデ・ミガキ。	
4	３Ｐ-16	深鉢	胴	上端内径15.6	○粗砂少，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色　内）褐色，橙褐色	外）横方向沈線，円形刺突列， 斜方向沈線。内）横方向ナデ・ミガキ。	

第２表　８Ｐ土坑出土縄文土器観察表

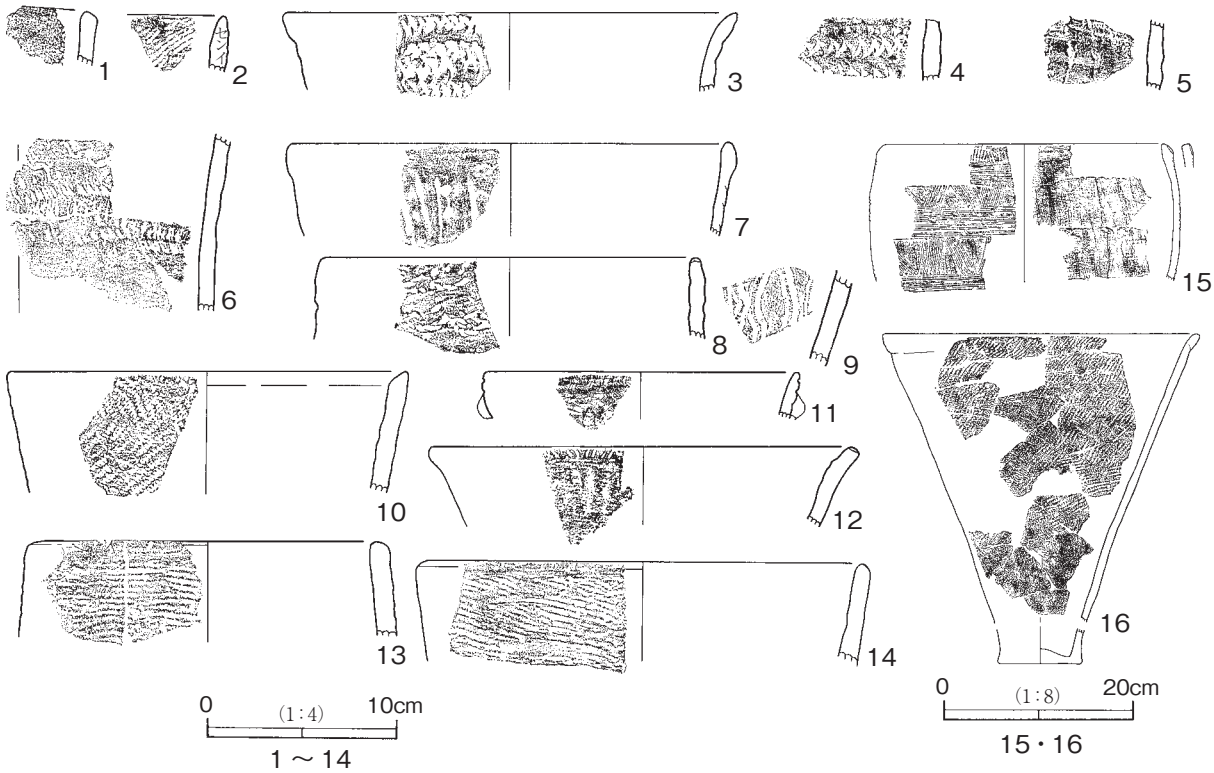
遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	８Ｐ一括	深鉢	口縁	口内径21.8	○粗砂　◎やや脆い。荒れている ●外）淡褐色，灰褐色　内）橙褐色	外）撚糸Ｒの回転による無節縄文。 内）肌荒れ状態。	
2	８Ｐ-１・３	深鉢	胴下	上端内径17.2	○粗砂　◎やや脆い ●外）橙色　内）淡橙褐色	外）縦方向のミガキ。 内）ミガキ，肌荒れ。	
3	８ｐ-５・６・９	深鉢	胴下	上端内径22.8	○粗砂　◎やや良 ●外）橙褐色　内）灰褐色，淡褐色	外）ミガキ　内）ナデ，肌荒れ。	
4	８Ｐ-７・８・８Ｐ一括	深鉢	胴	上端内径26.6	○粗砂，赤褐色粒子　◎やや脆い ●外）橙色，暗褐色，黒色　内）淡褐色	外）斜方向の無節縄文か。 内）肌荒れ。	
5	８Ｔ-70・368 ８Ｔ２区周溝	深鉢	口縁	口内径22.2	○粗砂，細礫，雲母　◎やや脆い ●外）淡灰褐色，淡褐色,灰色，灰黒色	口唇上にソウメン状浮線文を貼付。 外）ソウメン状浮線文，隆線，沈線，結節文，縄文ＲＬ。	前期末 十三菩提式
6	８Ｐ-10		胴上		内）淡褐色，灰色	内）口縁に蓋受け状の隆帯。ナデ。	

第３表　その他の遺構等出土縄文土器観察表

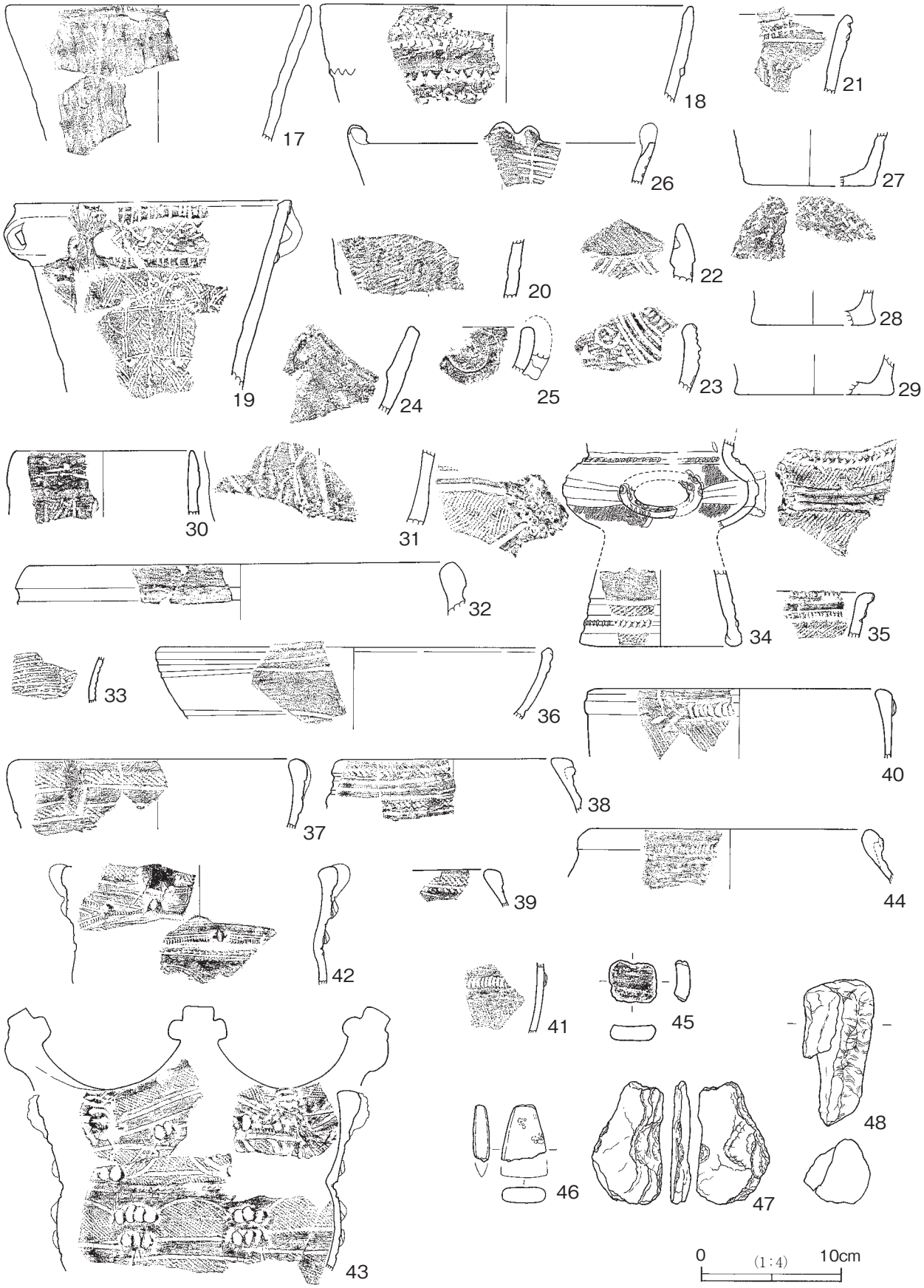
遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	Ｌ３G ５Ｐ付近	深鉢	口縁	（小片）	○粗砂　◎良 ●外）褐色　内）橙褐色	外）撚糸R圧痕まばら　内）ナデ，肌荒れ。	早期稲荷台式
2	８Ｔ-119	深鉢	口縁	口内径22.0	○粗砂，細礫，繊維少　◎良 ●外）淡褐色　内）淡褐色,灰黒色	外）撚糸L回転による無節縄文。 内）ナデ，ミガキ。	前期黒浜式
3	８Ｔ-148	深鉢	口縁	口内径23.8	○粗砂　◎やや良 ●外）淡褐色　内）淡橙色	外）無肋貝殻による波状貝殻腹縁文，凹凸の差が著しい。 内）横方向・斜方向ナデ・ミガキ	前期浮島式
4	８Ｔ-14	深鉢	胴	上端内径22.9	○粗砂　◎やや良 ●淡橙色	外）無肋貝殻による波状貝殻腹縁文。 内）肌荒れ	前期浮島式
5	８Ｔ４区周溝	深鉢	胴	上端内径22.0	○粗砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色　内）淡褐色	外）有肋貝殻による波状貝殻腹縁文。 内）横方向ナデ顕著	前期浮島式
6	８Ｔ-48・82・360	深鉢	胴	上端内径21.0	○粗砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色，橙褐色，淡褐色 内）黒褐色，灰褐色，灰白色，淡褐色	外）Ｓ字状結節文が斜方向に施文。 変形爪形文の如き刺突列，ナデ。 内）ナデ，平滑。	
7	１M	深鉢	口縁	口内径22.6	○粗砂少　◎やや良 ●淡橙褐色，淡灰褐色	外）輪積痕，それを消すように』縦方向の沈線・ナデ。 内）横方向ナデ，肌荒れ。	前期後半
8	８Ｔ-４区周溝	深鉢	口縁		○細砂，粗砂，赤褐色粒子　◎やや脆い ●外）黒褐色　内）橙褐色	口唇上に撚糸押圧　外）Ｓ字状結節文。 内）横方向ナデ。	前期末
9	１M-42	深鉢	胴		○細砂，粗砂少　◎良 ●外）淡褐色　内）褐色	外）平行沈線　　内）ナデ，ミガキ，平滑。	前期後半
10	８Ｔ-64	深鉢	口縁	口内径21.0	○粗砂，赤褐色粒子　◎やや脆い ●淡褐色	内面を削いだような形の口唇。外)RL縄文を口唇では縦方向，その下で横，その下では縦に施文し，羽状の効果。内)肌荒れ。	前期後半
11	２M 確認調査のB６-３～Ｃ６-１GⅡ層	鉢か	口縁	口内径16.4	○細砂，粗砂　◎良 ●橙色	外）撚糸Lと結節による絡条体圧痕。瘤文。 内）斜方向ナデ。	前期後半
12	８Ｔ-13	深鉢	口縁	口内径22.0	○粗砂多　◎良 ●外）褐色　内）赤褐色	口唇上に刻み，外）横方向ヘラ削り，器面波打つ。 内）横～斜方向ナデ・ミガキ。	



第４図　縄文土坑出土遺物実測図



第５図　その他の遺構等出土遺物実測図（1）



第６図　その他の遺構等出土遺物実測図（2）

13	８Ｔ-69・ ８Ｔ２区	深鉢	口縁	口内径17.2	○粗砂少　◎脆い ●外）淡褐色，灰褐色　内）淡褐色	外）無節縄文か　内）肌荒れ。	
14	Ｌ３Ｇ	深鉢	口縁	口内径22.4	○細砂，粗砂　◎やや脆い ●外）橙色　内）橙褐色，淡褐色	外）撚糸Rの回転による無節縄文　内）肌荒れ。	
15	Ｊ２Ｇ-１・４・ ５・７	深鉢	口縁～ 胴	口内径28.8 胴部最大内径 31.4	○粗砂，細礫，赤褐色粒子　◎良 ●外）淡褐色　内）淡褐色，淡灰褐色， 灰白色	外）口唇部に縦方向短沈線。 横走沈線５～６，８条。斜方向沈線６，８条。 深い沈線と浅い沈線の２条一組 内）口縁横方向ナデ，以下縦方向ナデ，ミガキ顕著。	前期興津式
	１M-13・Ｊ２～Ｊ３Ｇ・Ｊ２Ｇ　Ｊ２Ｇ-２　Ｊ２Ｇ-３　１M-33　１M一括						
16	８Ｔ-246ほか 多数	深鉢	口縁 ～胴下	口内径40.0 高さ43.5	○細砂，粗砂まばら　◎やや脆いが良好な箇所もある。 ●外）上半：暗褐色,黒褐色，褐色， 下半:橙色，橙褐色　内）橙褐色，褐色， 黒褐色，灰黒色に褐色の斑点	外）口唇下1.7～2.8cmに輪積痕，わずかに屈曲。ＬＲ縄文。 胴下～底付近は縦方向のミガキ。 内）口縁付近横方向ナデ・ミガキ， 胴以下は斜～縦方向ナデ・ミガキ。	中期初頭か
	８Ｔ-337, 335, 291		底部	底径11.2			
17	Ｊ２Ｇ-６・ Ｊ２～Ｊ３Ｇ　８Ｔ-28	深鉢	口縁～ 胴	口内径20.8	○細砂　◎良 ●外）暗褐色，黒褐色，淡褐色　内）橙褐色	外）縦方向ハケ目。 内）肌荒れ。	
18	８Ｔ-376・ 345・ ２M-34	深鉢	口縁	口内径26.0	○粗砂　◎良 ●外）橙色，褐色　内）赤褐色，褐色， 暗褐色	外）半裁竹管による刺突文，三角形の 抉り込み　内）口唇付近横方向ナデ， 以下は縦方向ナデ・ミガキ。	前期十三菩提式
19	８Ｔ-122・ 362・364・	深鉢	口縁～胴	口内径18.0	○粗砂，細礫，雲母　◎良 ●淡灰褐色，灰黒色，灰褐色	外）口唇及び口唇下４cmのところに刻みある隆帯が廻る。 その隆帯と環状の把手が連結。	前期十三菩提式
	２区墳丘　８Ｔ-222・223・363　８Ｔ-192・３区墳丘 ８Ｔ-365・　２区墳丘　８Ｔ-213　１区墳丘 ２区				隆帯間には沈線と刺突による文様が展開。胴部は，地文が撚糸Lを縦方向に施文した無節縄文。沈線による三角文や直線文，縦方向のＺ字状結節文が施される。 内）口縁付近横方向ナデ,胴部縦方向ナデ。		
20	８Ｔ-72	深鉢	胴下	上端内径12.0	○細砂，粗砂　◎やや脆い ●外）淡褐色，淡灰褐色　内）黒褐色，灰黒色	外）撚糸L回転による無節縄文。細い沈線。 内）縦方向ナデ。	
21	８Ｔ-381	深鉢	波状口縁	口内径26.0	○粗砂，細礫（雲母，石英，長石）　◎良 ●褐色	外）刺突列，沈線，交互刺突文が崩れたような状態。RL縄文。内）横方向ナデ・ミガキ。	中期五領ヶ台式
22	８Ｔ-15	深鉢か	口縁波頂部の 三角形突起		○粗砂，細礫（石英）　◎良 ●外）褐色，灰色　内）褐色，暗褐色	口唇上に刻み。外）RL縄文か。沈線，押し引き文。内）三角形の陰刻。ナデ。	中期五領ヶ台式
23	Ｌ４Ｇ	深鉢か	波状口縁	口内径16.0	○粗砂多，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色，暗褐色，黒褐色 内）褐色，橙褐色	口唇上に刻み。外）沈線４条，弱い押し引きか。地文はRL縄文。沈線による円文，三角陰刻文。 内）ナデ，ミガキ，平滑。	中期五領ヶ台式 22と同一か
24	廃土	深鉢	口縁波頂部	口内径22.0	○粗砂多，細礫　◎やや脆い ●淡橙色，淡褐色	丸みを帯びた山形の波頂部。左の割れ口は， 隆線がはずれた痕跡。外）無文，ナデ。内）段あり。	阿玉台Ｉa式
25	８Ｔ-62・63	深鉢か	口縁	口内径29.2	○粗砂，細礫（石英，長石）　◎良 ●外）褐色，暗褐色　内）暗褐色	外）太い隆線が曲線を成して口縁部に貼付される。 隆線は途中で割れている。内）横方向ナデ・ミガキ。	中期阿玉台式か
26	２M	深鉢	口縁	口内径21.0	○粗砂少　◎良 ●外）淡褐色，暗褐色，灰色　内）褐色	口唇に突起　外）横走沈線４条，突起の下では途切れる。 ナデ，ミガキ，平滑。 内）ナデ，ミガキ，平滑。	
27	８Ｔ-391 ８Ｔ-390	深鉢	底部	底径9.4	○粗砂，細礫（石英）多　◎やや脆い ●外）橙色　内）褐色	外)ナデ･ミガキ　底外)網代痕を消そうとしたらしい　内）ナデ。	
28	８Ｔ-116	深鉢	底部	底径8.8	○粗砂　◎やや脆い ●外）橙褐色　内）灰褐色	外）横方向ナデ・ミガキ。 内）ナデ。	
29	８Ｔ-233, ８Ｔ-12	深鉢	底部	底径11.4	○粗砂ごくまばら　◎良 ●外）灰褐色　底外）淡褐色　内）褐色	外）横方向ナデ・ミガキ　底外）ナデ・ミガキ。 内）ナデ・ミガキ。	
30	８Ｔ-107	深鉢	口縁	口内径12.6	○粗砂，細礫　◎やや脆い。 ●外）淡褐色，灰褐色　内）灰褐色	外）横方向・縦方向沈線，縄文。 内）横・縦方向ナデ・ミガキ，平滑。	
31	８Ｔ-144, 145	深鉢	底部付近	上端径14.8	○細砂，粗砂少　◎脆い。 ●外）淡橙褐色　内）淡褐色，黒色付着物あり。	外）縦方向太い沈線４条。 内）肌荒れ。	
32	８Ｔ-130, 149	深鉢	口縁	口内径30.0	○細砂　◎良 ●外）淡橙褐色　内）褐色，灰褐色	外）口唇直下に太い沈線。 内）横方向ナデ・ミガキ。	中期加曽利Ｅ式
33	２M	深鉢	頚部付近	上端内径26.6	○粗砂，赤褐色粒子　◎良 ●淡橙褐色	外）横方向条線，地文は縄文か。 内）横方向ナデ。	後期加曽利Ｂ３式 粗製
34	８Ｔ-123, 124 151　１M	異形台付き 土器 ８Ｔ-180	胴部,台部	最大径14.0	○粗砂　◎やや脆い ●外）灰褐色，灰色　　内）灰黒色	外）横方向沈線，刺突，ＬＲ縄文，磨消縄文。 円形竹管文　内）ナデ・ミガキ	後期曽谷式
35	廃土	鉢	口縁	口内径20.0	○粗砂，黒色粒子　◎良 ●外）淡橙色　　内）淡褐色	外）口唇に刻み，ミガキ，刻みある隆線，刺突，斜方向条線　内）横方向ナデ・ミガキ。	後期安行１式 精製
36	１M-49	鉢か	口縁	口内径27.0	○粗砂多，雲母　◎良 ●外）淡橙褐色，橙色　内）橙色	外）横走沈線３条，横方向ヘラ削り。 内）稜あり，ナデ，平滑。	後期
37	８Ｔ-105, 344	深鉢	口縁	口内径19.8	○粗砂　◎良 ●外）灰褐色，橙色　内）淡褐色，橙色	外）隆起帯縄文ＲＬ，縦長の瘤。 内）横・斜方向ナデ。	後期安行１式 精製
38	８Ｔ３区, ３区周溝	深鉢	口縁	口内径14.0	○粗砂　◎やや脆い ●外）灰褐色,橙色,灰黒色　内）暗灰褐色	外）隆起帯縄文ＲＬ，沈線，ミガキ。 内）横・斜方向ナデ。	後期安行１式 精製
39	８Ｔ２区墳丘	深鉢	口縁	（小片）	○細砂,赤褐色粒子　◎良 ●外）淡橙色　　内）橙褐色	外）隆起帯縄文ＲＬ，沈線，刺突。 内）横方向ナデ・ミガキ。	後期安行１式 精製
40	８Ｔ-25，廃土	深鉢	口縁	口内径19.4	○粗砂,赤褐色粒子　◎良 ●外）橙色，淡褐色　　内）橙色	外）紐線文，縦方向条線。 内）横方向ナデ・ミガキ。	後期安行１式 粗製
41	８Ｔ-27	深鉢か	胴上		○粗砂,赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色，橙色　　内）褐色	外）紐線文，縦方向条線。 内）横方向ナデ・ミガキ。	後期安行１式 粗製
42	８Ｔ-191 182　84	深鉢 378	口縁波底部	口内径17.0	○粗砂,赤褐色粒子　◎良 ●外）黒褐色，暗褐色　　内）褐色	外）隆起帯縄文ＲＬ，隆起刻み文，沈線，ミガキ，瘤文。 内）横方向ナデ・ミガキ。	後期安行２式 精製
43	８Ｔ-77，74, 80，75，79	76	口縁波底部	口内径20.0	○粗砂　◎良　●外）橙褐色，褐色，黒褐色，暗褐色　　内）褐色，橙褐色，暗褐色	外）隆起帯縄文ＲＬ，隆起刻み文，沈線，磨消縄文，瘤文。 内）横方向ナデ・ミガキ。	後期安行２式 精製
44	１M-７	深鉢	口縁	口内径19.0	○粗砂多　◎やや不良 ●外）淡褐色，灰褐色　内）橙色，橙褐色	口唇肥厚　外）紐線文。 内）横方向ナデ。	後期安行２式 粗製

第４表　縄文時代土製品・石器計測表

遺物No.	現地No.	器種	残存状態	計測値（mm）	整形・調整・文様などの特徴	石材	時期等
45	８Ｔ３区墳丘	土器片錘か		32×27×11，重さ14.1ｇ	粗砂少，細砂。やや脆い。淡褐色，淡橙色， 無文。抉りは不明瞭。		
46	８Ｔ-96	磨製石斧	約１／２ 基部	39.5×31×厚さ12.5，重さ31ｇ	小型品であろう。	緑色凝灰岩	
47	８Ｔ-118	打製石斧	一部欠損	88×51×厚さ14，重さ75.2ｇ		片岩	
48	８Ｔ-47・188	敲石か	約２／３	105×49.5×厚さ45，重さ238.4ｇ	被熱か。傷が多数ついている。	淡褐色・黄白色の緻密な石	

第２節　弥生時代

遺構は，竪穴住居跡１軒，遺物は，この住居跡及びその他の遺構から118点以上出土した。すべて弥生後期に属するものと考える。

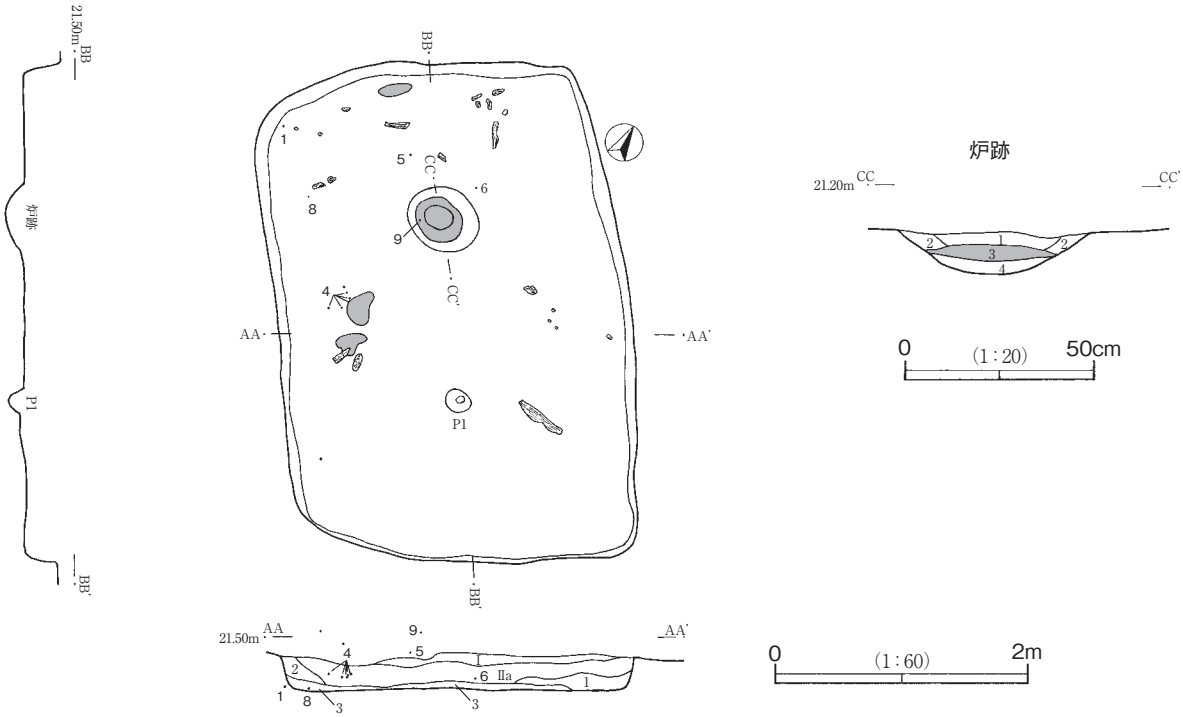
１　竪穴住居跡

１Ｄ住居跡（第７図～８図）**位置**　Ｌ３Ｇ，８号墳２～３区。８号墳墳丘下。**平面形態**　隅丸長方形。**規模**　北西－南東方向3.98m，北東－南西方向2.78m。深さ20～30㎝。**覆土**　８号墳土層断面Ａ－Ａ′′にも表れる。墳丘下の旧表土Ⅰ層とⅡａ層が住居跡内に落ち込んでいると判断した。１：7.5YR３/３（暗褐色土）主体，４/３（褐色土）。焼土を部分的に含む。炭化材片含む。２:7.5YR４/３主体，３/３。３：7.5YR４/３主体，３/３。緻密。４：５YR３/２（暗赤褐色焼土），7.5YR３/３。炉の上の土。**壁面**　褐色土から成る。わかりにくかった。特に北西コーナーは根のためわかりにくかった。**床面**　ソフトロームから成る。平坦。貼り床は顕著ではなく，捉えにくかった。硬化面は，住居中央にブロック状にあり，範囲としては捉えられなかった。**炉**　中央北西寄りにある。規模（㎝）58×50，深さ22㎝。焼土は良好であるが，赤化した火床は認められず。覆土：１：2.5YR３/３（暗赤褐色焼土）。径３㎜以下の焼土粒子を含む。２：7.5YR３/３・４/３（褐色土）。径１㎜以下の焼土粒子を少量含む。３：2.5YR４/６・３/６（赤褐色焼土・暗赤褐色焼土）。良好な焼土。４：全掘時掘り広がり。**柱穴**　明確なもの無し。Ｐ１は，径20㎝，深さ11㎝。覆土は暗褐色土でプランは明瞭だった。

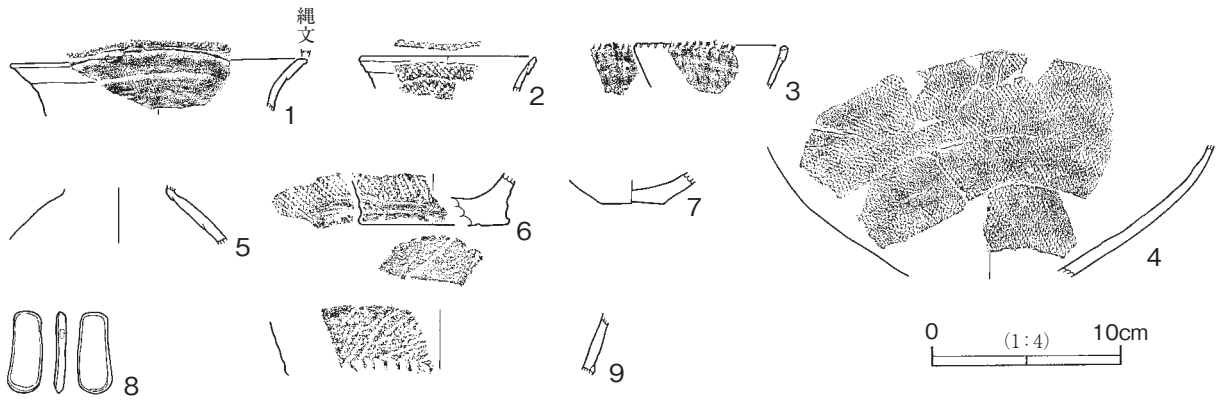
出土遺物　合計64点。内訳は，弥生土器16点，土師器３点，縄文土器１点，石製品１点。９点を図示した。他に炭化材18点が出土した。

２　その他の遺構出土弥生土器（第９図）

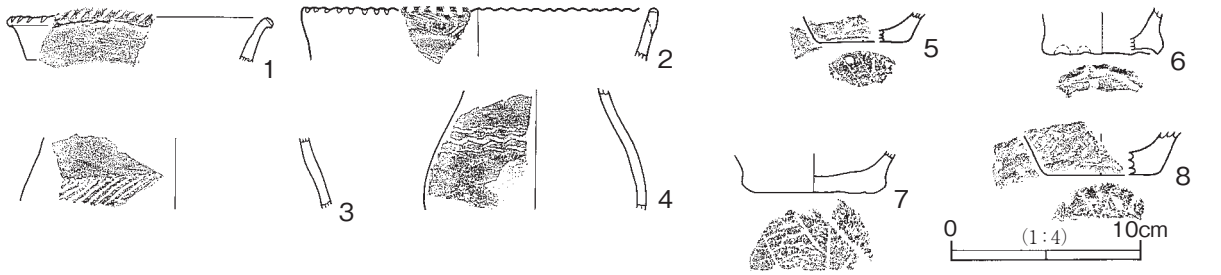
弥生土器は，８号墳から80点，１Ｍ溝跡から10点，２Ｍ溝跡から10点出土した。いずれも小片が中心である。８点を図示した。



第７図　1D住居跡実測図



第８図　1D住居跡出土遺物実測図



第９図　その他の遺構出土弥生土器実測図

第５表　１Ｄ住居跡出土遺物観察表

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	１Ｄ-12	甕	複合口縁	口外径15.8	○粗砂　◎良　●外）褐色，橙褐色 内）暗褐色，赤褐色，黒褐色	口唇上～内面にLR縄文。 外）横方向ナデ，縦方向ナデ。 内）横～斜方向ナデ。	後期
2	１Ｄ一括	甕か	複合口縁	口外径9.4	○粗砂，白色粒子　◎良 ●外）暗褐色，橙褐色，淡褐色，灰色　内）褐色，暗褐色	口唇上に縄文。 外）縄文LRか。内）横～斜方向ナデ。	
3	１Ｄ一括	甕か	口縁	口外径8.2	○細砂　◎良 ●淡褐色，褐色	口唇上に深い刻み。 外）輪積痕。ナデ　内）ナデ。	
4	１Ｄ-17～21	甕	胴下	上端外径23.8	○粗砂少　◎良 ●外）橙褐色，褐色，黒褐色　内）褐色，淡褐色	外）附加条１種　RL+２L。 内）剥離，ナデ，ミガキ。	
5	１Ｄ-10	壺か	胴上	頚部外径5.8	○粗砂，細礫　◎良 ●外）暗赤褐色　内）褐色，黒褐色	外）赤彩，ナデ，ミガキ。 内）ナデ，ミガキ，輪積痕。	
6	１Ｄ-14	甕	底部	底径7.8	○細砂，粗砂少　◎良 ●外）灰褐色　内）黒色	外）附加条１種　RL+２L。横方向ナデ。 底外）木葉痕　内）ナデ。	
7	１Ｄ	甕か	底部	底径3.2	○粗砂，赤褐色粒子　◎良 ●橙褐色，黒色	外）内）ナデ，ミガキ。	
9	１Ｄ-８	装飾壺	口縁付近	上端外径17.8	○粗砂まばら　◎やや脆い ●外）淡橙色　内）褐色，淡褐色	外)附加条１種　LR+２R。剥離。口縁複合部下に押圧。 内）横方向ナデ。	

石製品

遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（mm）	整形・調整・文様などの特徴	石材	時期等
8	１Ｄ-11	砥石か	完形	43×17×厚さ５ 重さ7.9ｇ	不自然に扁平。	黒色の緻密な石。通常，砥石には用いない石材。	

第６表　その他の遺構出土弥生土器観察表

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	８Ｔ-429	甕	口縁	口外径13.4	○粗砂，細砂　◎良　●外）橙褐色，黒色付着物 内）淡褐色，暗褐色	口唇上に刻み。 外）横方向ナデ。内）横方向ナデ。	後期
2	１Ｍ	甕	複合口縁	口外径19.0	○細砂　◎良 ●外）暗褐色　内）褐色，暗褐色	口唇上に明瞭な刻み。外）撚糸L回転による無節縄文など。内）ナデ，ミガキ。	
3	８Ｔ-211	甕	胴上	上端外径14.0	○粗砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）暗褐色，黒色　内）淡橙褐色	外）ナデ，附加条１種　LR+２R。 内）ナデ。	
4	８Ｔ-373	甕	胴上	上端外径7.6	○細砂　◎良　●外）黒色，剥離 内）橙色，淡褐色，灰色	外）結節文３列，横方向ナデ。 内）横～斜方向ナデ。	
5	１Ｍ	甕	底部	底径5.2	○粗砂　◎良 ●淡褐色	外）ナデ。 底外）木葉痕　内）剥離。	
6	８Ｔ-126	甕か	底部	底径6.0	○細砂　◎良 ●外）淡橙褐色　内）淡橙色	底外）木葉痕　内）ナデ。	
7	８Ｔ-２・ ８Ｔ１区墳丘	甕	底部	底径7.6	○細砂，粗砂極少　◎やや脆い ●外）灰褐色　内）黒褐色	外）横方向ナデ。 底外）木葉痕　内）ナデ，ミガキ。	
8	１Ｍ-６	甕	底部	底径6.2	○細砂，粗砂　◎良 ●外）橙褐色　内）灰褐色	外）附加条１種　LR+２Rか。 底外）木葉痕　内）ナデ。	

第３節　古墳時代以降

平戸台８号墳と関連遺構は第４節で扱うこととし，本節では，古墳時代土坑１基，奈良・平安時代土坑１基，同時代溝跡２条，近世土坑１基について掲載する。土師器は，972点以上出土した。出土土器の約半数を占める。須恵器は25点であった。

１　土坑（第10図）

１Ｐ土坑　位置　Ｊ５G。**平面形態**　楕円形。**底面形態**　長楕円形。**規模**（㎝）132×124，深さ24。**覆土**　１：7.5YR３/２・３/３（黒褐色土・暗褐色土）。径１㎜以下黄色スコリアをまばらに含む。２との層界明瞭。２:7.5YR３/３・４/４（暗褐色土･褐色土）。**出土遺物**　合計12点。内訳は，土師器11点，縄文土器１点。ロクロ土師器は無く，古墳時代に属すると判断した。小細片のため図は省略した。**特記事項**　緩斜面に立地。プランは明瞭だったが，雛壇状の浅い凹みになった。

４Ｐ土坑　位置　Ｉ２G。**平面形態**　楕円形。**底面形態**　長楕円形，有段。　**規模**（㎝）90×65，深さ33。**覆土**　１：7.5YR４/３（褐色土）。径１～２㎝ロームブロックを含む。緻密。２：7.5YR４/４（褐色土）。３：7.5YR４/４。２より緻密。４：7.5YR４/４。３より緻密度低い。**出土遺物**　無し。周辺から土師器小片が出土したため奈良・平安時代と判断した。

２Ｐ土坑　位置　Ｉ５G。確認調査B６-４G。**平面形態**　楕円形。**底面形態**　楕円形，有段。　**規模**(㎝)190×145，深さ43。最深部の標高は，18.33～18.37m。**覆土**　壁･底面とほとんど同じ色の褐色土だが，非常にやわらかい。表土から掘り込まれていると判断した。**出土遺物**　無し。**特記事項**　緩斜面に立地。確認調査で検出した。近世以降の土坑と判断したため，トレンチ範囲内のみ調査した。

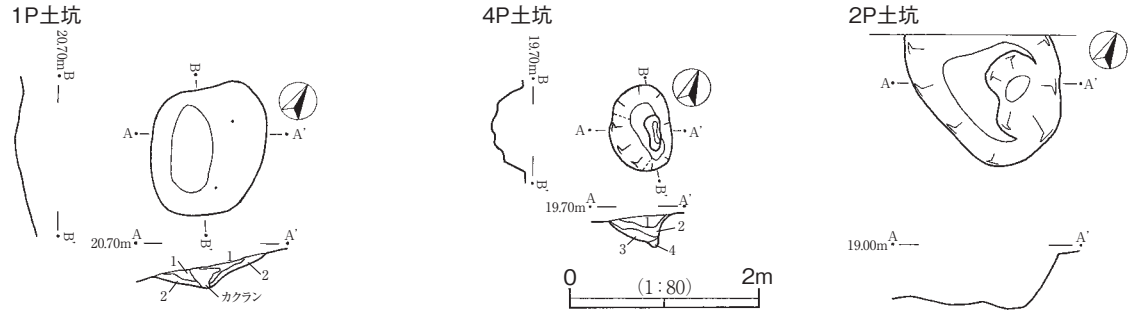
２　溝跡（第11図～12図，15図）

８号墳の周溝を切る２条の溝跡が並行して存在する。北側の溝跡を１M，南側を２Mとした。

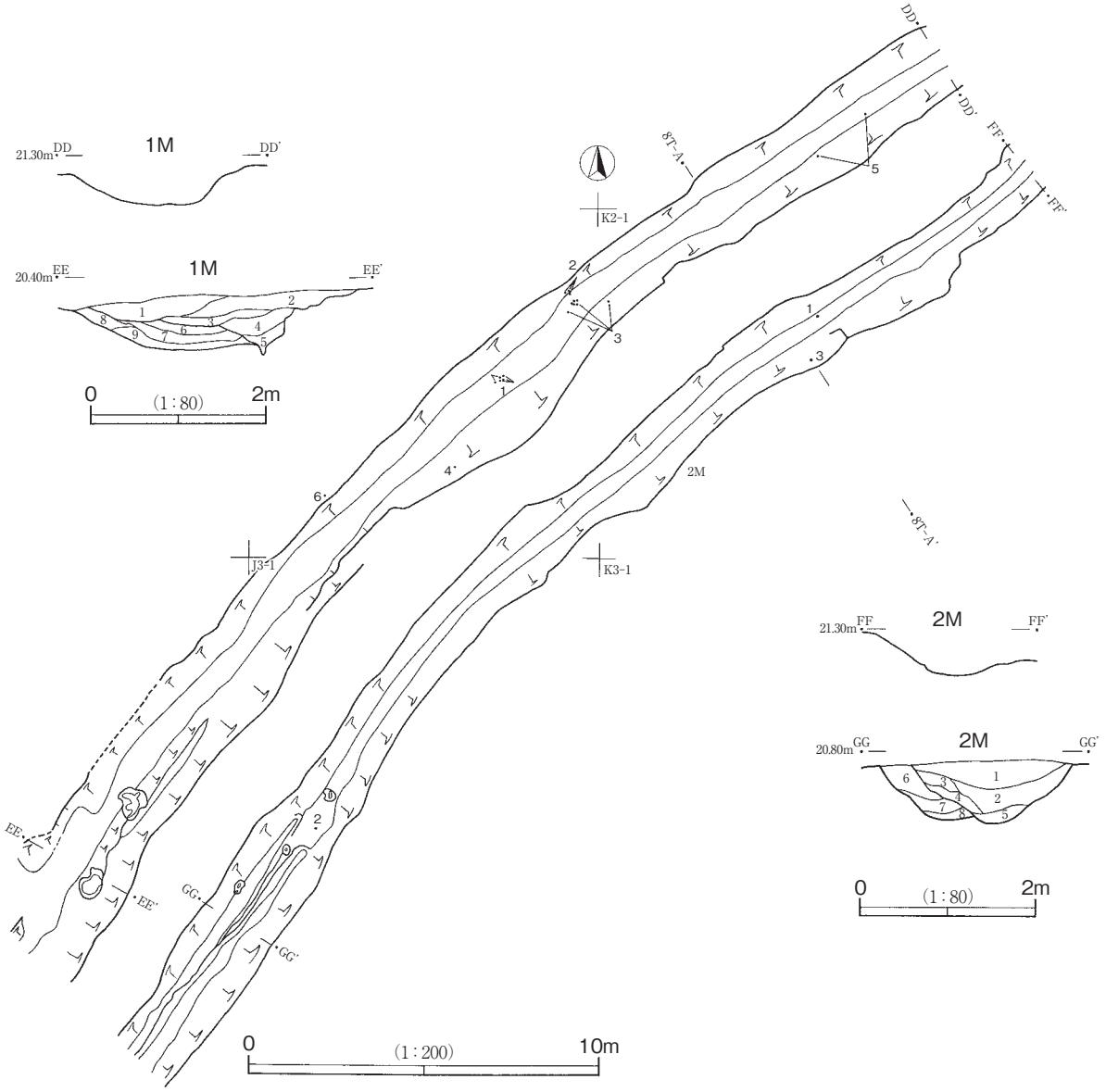
１M溝跡　位置　Ｌ１G～Ｉ４G。**規模**　上面幅1.8～3.25m，底面幅0.5～1.04m，深さ42～60㎝。北東端DD-DD´で，上面幅2.07m，底面幅0.5m，深さ42㎝，８号墳土層断面Ａ－Ａ´´上で，上面幅2.82m，底面幅1.04m，深さ60㎝，南西端EE-EE´で，上面幅3.25m，底面幅1.0m，深さ60㎝。残存長49m。溝底の標高は，DD-DD´で20.72m，EE-EE´で19.57m。**覆土**　８号墳土層断面Ａ－Ａ´：１：7.5YR３/３（暗褐色土）。径３㎜以下の黄色スコリアを含む。緻密。２:7.5YR３/３，４/４（褐色土）がにじむ。径２㎜以下の黄色スコリアをまばらに含む。３:7.5YR３/３。黄色スコリア２と同様。４:7.5YR３/３・４/３（褐色土）斑状。５：7.5YR３/３・３/２（黒褐色土），４/６（褐色ローム）。EE-EE´：１：7.5YR３/４（暗褐色土）。径２㎜以下の黄色スコリアをまばらに含む。緻密。２：7.5YR３/３。黄色スコリア１と同様。径５～10㎜のロームブロックを含む。緻密。３：7.5YR３/３。２より暗い。黄色スコリア１と同様。ロームブロック２と同様。緻密。４（ピット）：7.5YR３/３。径10㎜のロームブロックを少量含む。緻密度低い。５（ピット）：7.5YR３/３・３/２。緻密度低く，崩れやすい。６：7.5YR３/３・３/２。径３㎜以下の黄色スコリアを含む。径10㎜のロームブロックを少量含む。７：7.5YR３/３。径４㎜以下の黄色スコリアを多量含む。緻密。８：7.5YR４/３，４/４。径５㎜のロームブロックをまばらに含む。緻密。９：7.5YR４/４。緻密。**特記事項**　EE-EE´の土層を見ると，埋没の過程で掘り返されてピット状になっている。

出土遺物　合計263点で，内訳は，土師器坏36点，土師器甕143点，縄文土器53点，底部８点，弥生土器10点，須恵器４点，陶器１点，瓦１点，石製品１点，チャート剥片１点，小礫５点などである。土師器・須恵器・石製模造品合計６点を図示した。

２M溝跡　位置　Ｌ１G～Ｉ５G。**規模**　上面幅1.2～2.4m，底面幅0.26～0.5m，深さ26～72㎝。北東端FF-FF´で，上面幅1.6m，底面幅0.4m，深さ26～32㎝，８号墳土層断面Ａ－Ａ´´上で，上面幅2.38m，



第10図　各時代土坑実測図



第11図　1M溝跡・2M溝跡実測図

底面幅0.5m，深さ60cm，南西端GG-GG´で，上面幅2.22m，底面幅0.84m（但し２条の重複。0.26mの溝が幅0.4mの溝を切る），深さ　新しい溝72cm，古い溝66cm。残存長54m。溝底の標高は，FF-FF´で20.76m，GG-GG´で19.97m。**覆土**　８号墳土層断面Ａ－Ａ´：１：7.5YR３/３・４/３（暗褐色土・褐色土）。褐色土を斑状に含む。２：7.5YR３/３。ロームを含む。３：7.5YR４/３・４/４（褐色土）。８号墳に属する覆土かもしれない。GG-GG´：１～５が新しい溝の覆土，６～８が古い溝の覆土。１：7.5YR４/３。径２㎜以下の黄色スコリアを多量含む。緻密。２：7.5YR４/３。径１㎜以下の黄色スコリアを含む。緻密。３：7.5YR４/３・３/３。径５～10㎜のロームブロック・径２㎜以下の黄色スコリアを含む。４：7.5YR３/３。径３㎜以下の黄色スコリアを多量含む。緻密。５：7.5YR４/３。黄色スコリア４と同様。緻密。６：7.5YR４/３・３/３。径５㎜以下の黄色スコリアを含む。７：7.5YR３/３。黄色スコリア６と同様。緻密。８：7.5YR４/４・４/３。径３㎜以下の黄色スコリアを多量含む。径10㎜のロームブロックを含む。緻密。**特記事項**　南西では溝底が二つになり，GG-GG´の土層観察で２条の重複となっていることがわかる。

出土遺物　合計291点で，内訳は，土師器192点(坏10点，甕165点，赤彩15点，内黒１点，高坏１点)，縄文土器73点，底部11点，弥生土器10点，陶器１点，瓦１点，小礫３点など。土師器３点を図示した。

３　その他の遺物

第12図に，遺構外など出土の土師器や時期不明の砥石・土製品・弾頭などを図示した。

第７表　１Ｍ溝跡出土遺物観察表

土師器

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	１Ｍ-24・27・一括 １Ｍ-23　25　26　一括	坏	口縁～体部	残存高5.6, 口径23.6	○細砂，粗砂少　◎良 ●外）淡褐色　内）黒色	ロクロ成形。外）横方向ナデ， 内）内面黒色処理。横方向ナデ・ミガキ。	
2	１Ｍ-15～17	坏	底部	底径9.2	○細砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）灰黒色，淡褐色　内）黒色	ロクロ成形。底外）回転糸切痕，周縁ヘラ削り， 内）内面黒色処理。ナデ，ミガキ。	
3	１Ｍ-58～61・55・11・一括	甕	口縁～胴上	口径16.2	○細礫（石英）多　◎良 ●淡褐色	口唇つまみ出し直立。外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ。	

須恵器

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
4	１Ｍ-31	壺	口縁	口径22.0	○細砂　◎良 ●外）暗灰色　内）灰色，にぶい灰色	ロクロ成形。外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ。	
5	１Ｍ-18・19	甕	胴下	上端径30.2	○細砂，粗砂少，細礫少，黒色粒子　◎良 ●灰白色	外）叩き目。傷や磨り痕あり，再利用品か。 内）横方向ナデ。	

石製品

遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（㎜）	整形・調整・文様などの特徴	石材	時期等
6	１Ｍ-44	石製模造品	半欠	径33×38，厚さ4.9，孔径2.2，重さ8.0ｇ	有孔円板。孔２箇所。	緑泥片岩	

第８表　２Ｍ溝跡出土土師器観察表

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	２Ｍ-36・８Ｔ-１区	坏か	口縁	口径13.6	○細砂，赤褐色粒子，細礫少　◎良 ●赤褐色	赤彩。　外）横方向ナデ。 内）横～斜方向ナデ。	
2	２Ｍ-26	坏か	口縁	口径13.8	○細砂　◎やや脆い　●外）赤褐色，暗褐色，黒色，淡褐色　内）赤褐色，淡褐色	外）屈曲より上：赤彩，下：黒彩。横方向ナデ。 内）赤彩。横方向ナデ・ミガキ。	
3	２Ｍ-37	高坏か	脚	残存高3.5， 上端径3.3	○粗砂　◎やや脆い ●外）淡褐色　内）淡橙褐色	外）ナデ。 内）ナデ。凹凸あり。	

第９表　グリッド等出土土師器観察表

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	Ｊ３Ｇ	甕か	底部	底径4.8～5.6	○細砂，粗砂　◎やや良 ●外）褐色　内）橙色，褐色	外）ヘラ削り，ナデ　底外）ヘラ削り。 内）ナデ。	
2	Ｌ４Ｇ	高坏か	脚	底径16.6	○赤褐色粒子多　◎やや脆い ●外）赤褐色　内）淡褐色	外）赤彩。ナデ，亀裂。 内）ナデ。	
3	Ｌ３Ｇ	甕	底部	底径9.0	○細砂，粗砂少　◎良 ●外）淡橙色，褐色　内）淡橙色	外）縦・横方向ミガキ。 内）ナデ，ミガキ。	
4	廃土	壺	複合口縁	口径14.8	○粗砂　◎良 ●外）褐色　内）橙褐色	外）ナデ　内）ナデ，ミガキ。	
5	表採	高坏	脚	底径12.0	○赤褐色粒子，黒色粒子　◎良 ●外）赤褐色，淡赤褐色　内）淡褐色，淡橙色	外）赤彩。縦方向ヘラ削り。 内）横方向ナデ・ミガキ。	
6	表採	高盤	結合部	脚部上端径5.3	○粗砂　◎良 ●外）橙褐色　内）淡橙褐色	ロクロ成形　外）横方向ナデ痕顕著。 内）ナデ。	
7	表採	かわらけ	１／３	高さ1.75（実測）， 口径7.6，底径5.4	○細砂　◎やや脆い ●淡褐色，褐色	ロクロ成形　外）横方向ナデ痕。 底外）回転糸切痕。内）ナデ。	

第10表　グリッド等出土石製品・土製品・鉄製品計測表

石製品

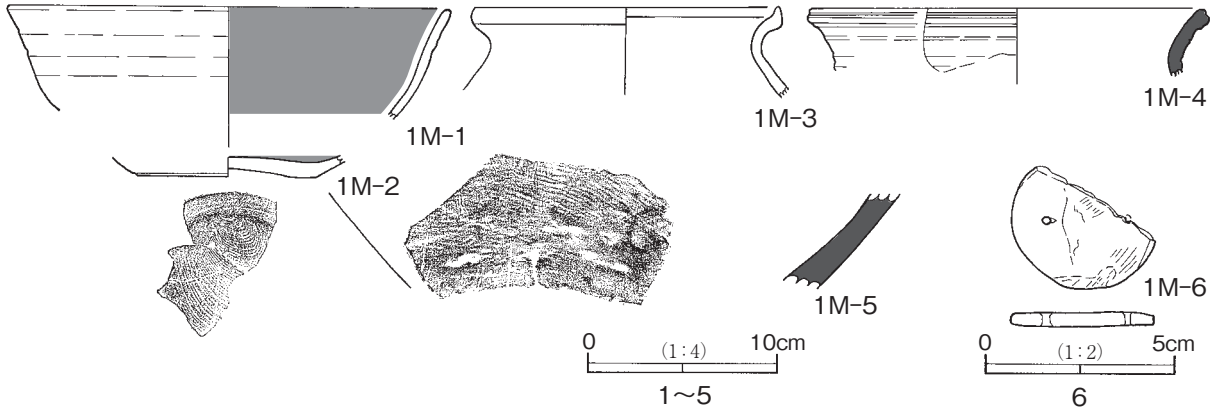
遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（㎜）	整形・調整・文様などの特徴	石材	時期等
1	Ｊ２～Ｊ３Ｇ	砥石	欠損	45×42×18.5，重さ39.9ｇ	４面使用。		
2	廃土	砥石		141×33.5×29，重さ168.4ｇ	５面使用。	白色	

土製品

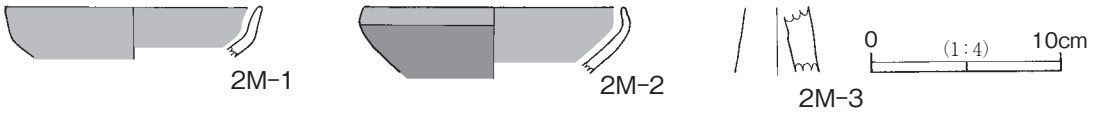
遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（㎜）	その他の特徴		時期等
3	８Ｔ-２区墳丘	焼成粘土塊		25.5×20×9.0，重さ3.9ｇ	細砂含む。灰黒色。指先でつまんだ粘土をそのまま焼いたもの。指紋あり。		
4	廃土	不明	欠損	51×残存29×残存高34，重さ20.5ｇ	泥面子の類か。外）沈線あり。		

鉄製品

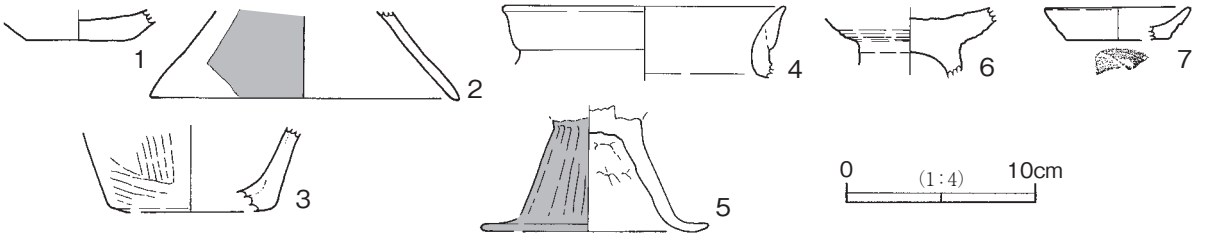
遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（㎜）	その他の特徴		時期等
5	２Ｍ-８	弾頭	略完形	径12.5×59　重さ39.7ｇ	先端に青いプラスティックのチップを装着。		現代



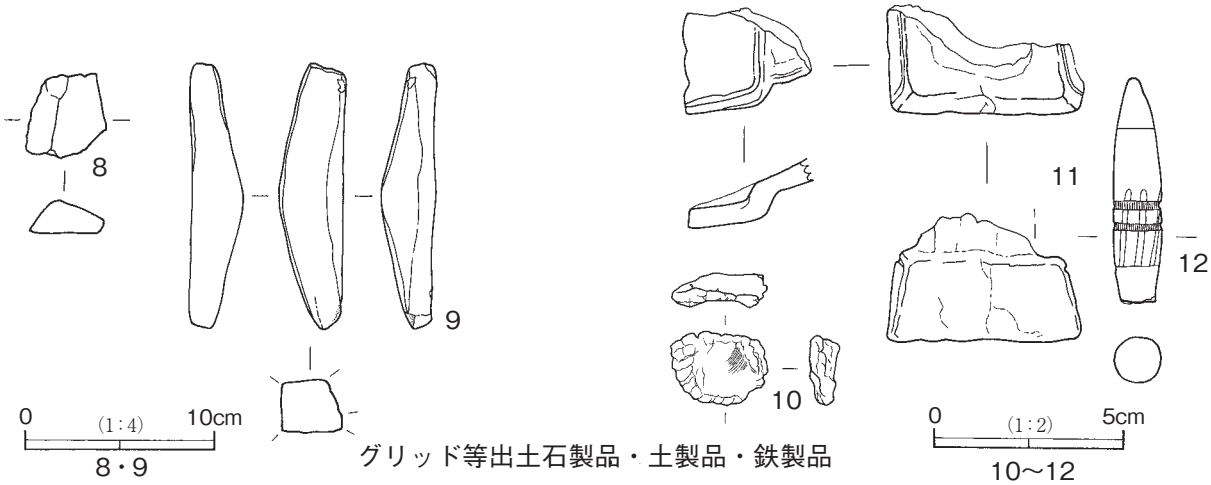
1M溝跡出土遺物



2M溝跡出土遺物



グリッド等出土遺物



グリッド等出土石製品・土製品・鉄製品

第12図　溝跡・グリッド等出土遺物実測図

第４節　平戸台８号墳（８Ｔ）

１　墳丘と周溝（第13図～15図）

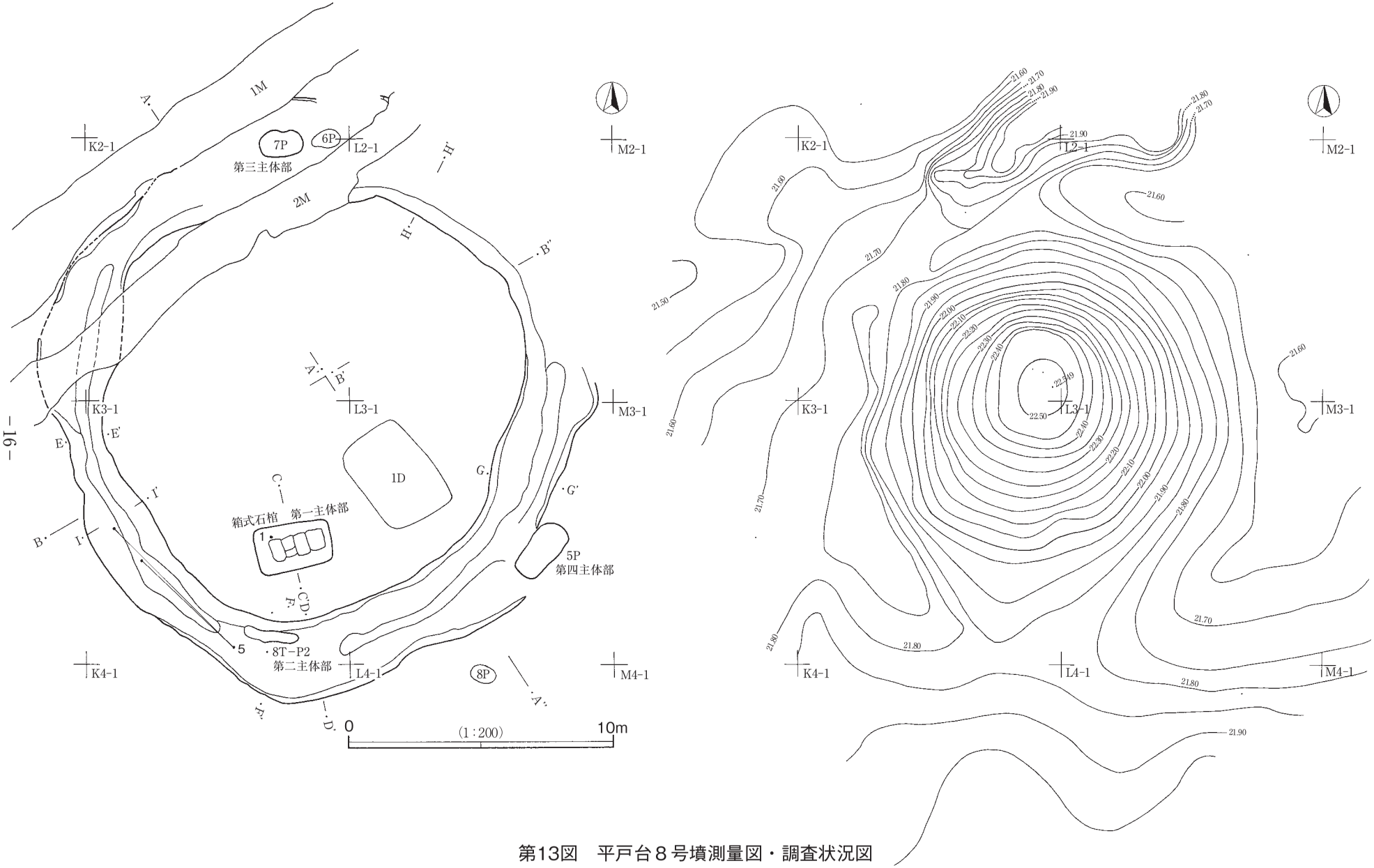
現況観察　径約13m，高さ約80㎝の低い円墳と認識された。**現況測量**　最高点の標高22.549m，裾部標高21.850m，比高0.699m。墳丘は北側がやや急で，南側がややなだらかであることがわかる。**調査方法**　十字形のセクションベルトを設定し，土層観察面をＡ－Ａ´－Ａ´´面とＢ－Ｂ´－Ｂ´´面とした。これを元に古墳を４区に分け，Ａ－Ａ´面とＢ－Ｂ´面で画された区域を１区とし，逆時計回りに２～４区とした。**墳形**　円墳だが，周溝の内側壁の形はやや不整形。**直径**　周溝の内側で15～16.6m，外側で21～23.3m。テラス部の内側10～12m。南北方向が長い。**墳丘の高さ**　旧表土のＩ層上面から，最厚部で93㎝。周溝の溝底から1.45m，テラス部から1.15m。**周溝規模**　幅1.3m～4.0mと不定，平均２～３m。幅が極端に狭いところは，壁を削り過ぎたためと思われる。なだらかな窪みで深さ25～40㎝，底面は不明瞭，また全体的に外側の壁の立上りがわかりにくく，３区では内側もわかりにくかった。**溝底の標高**（第14図）　最深部は，東部で20.90mの地点がある。北側は，21.00～21.05m，南～南西が高く21.10～21.15m。旧表土からの深さは，45～70㎝である。**主体部**　２区の墳丘裾近くに箱式石棺があり，これを第一主体部とした。同じ２区の周溝内に土坑（８Ｔ－Ｐ２）があり，これを第二主体部，４区周溝内に土坑（７Ｐ）があり，これを第三主体部，３区周溝外壁に土坑（５Ｐ）があり，これを第四主体部とした。

墳丘下土層　Ｉ層（旧表土）7.5YR２／１・２／２（黒色土・黒褐色土）。暗褐色土が斑状に入る。緻密度23。標高は，21.43～21.68m，概ね21.60m前後である。１Ｄ住居跡のところでは，その遺構内にⅡa層とともに落ち込んでいると判断した。Ⅱa層（腐食土層）7.5YR３／２・２／２（黒褐色土）。暗褐色土斑状。Ⅱb層（新期テフラ層）7.5YR３／３・４／３・４／４（暗褐色土・褐色土），Ⅱb´層7.5YR４／３・４／４・３／３。Ⅱc層（漸移層）7.5YR４／３・４／４。Ⅲ層ソフトローム層。

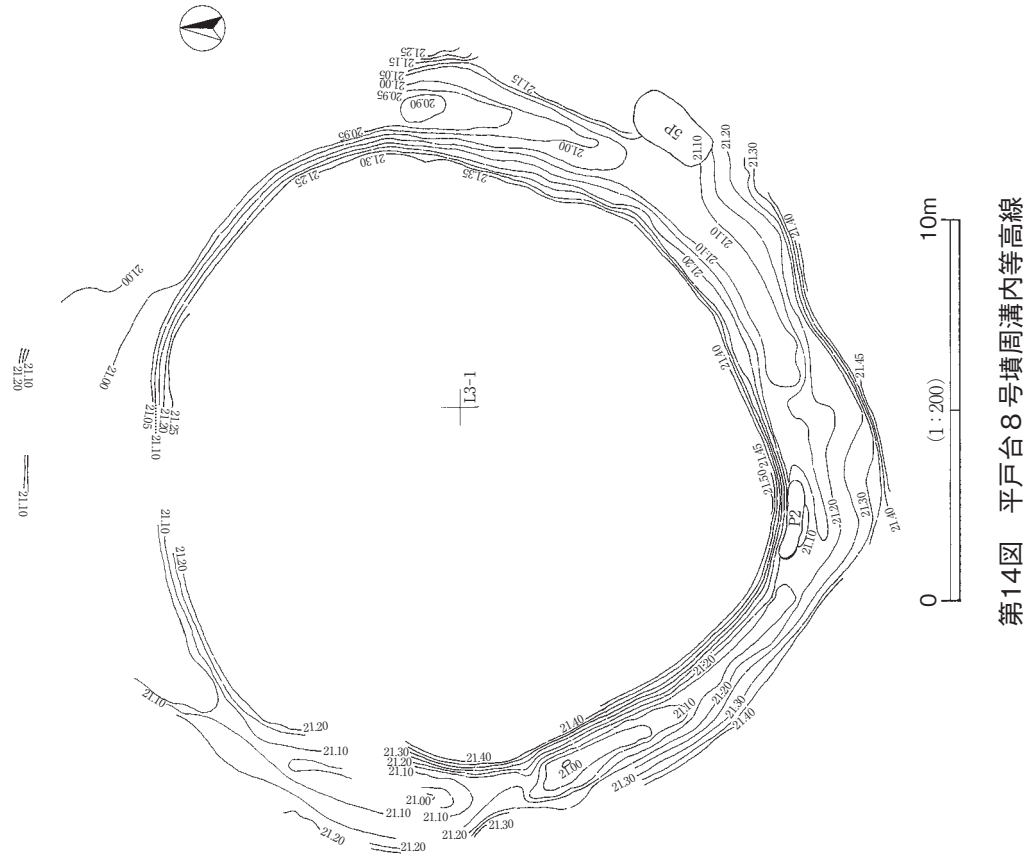
墳丘土層　Ⅰ－１層（現表土，暗褐色土）。脆弱。Ⅱ－１層（褐色土・暗褐色土）。Ⅱ－２層（暗褐色土）。Ⅱ－１より緻密。Ⅱ－３層(暗褐色土，黒褐色土混じり)。やや脆弱。Ⅱ－４層(暗褐色土)。均質。周縁部：周縁に土手状に盛られた土。１～29が相当。１～３・５・６・８・15・20・21・23・29（暗褐色土主体）６・８・15は緻密度20。23は緻密度22。４・９・11～13・16・18・19・22・24～28（黒褐色土主体)。22は緻密度22，25は緻密度20。７・10（暗褐色土・黒褐色土）７は緻密度20。14（暗褐色土・褐色土)。17（暗赤褐色焼土)。墳丘裾部：30～41が相当。30・32・37～40（黒褐色土主体)。31・34・36（暗褐色土主体)。31はやや脆弱。33，41（暗褐色土・黒褐色土)。35（暗褐色土・褐色土)。墳丘中央充填土：42～71が相当。42・43・45・49・51～53・58・62～64・66（暗褐色土主体)。42はやや脆弱。47・50・56・57・67・68・71（黒褐色土主体)。68は緻密度21。44・46・48・65・69（暗褐色土・黒褐色土)。54（暗褐色土・黒褐色土・褐色土)。55・59・60（暗褐色土・褐色土)。61（褐色土主体)。70（暗赤褐色焼土)。その他：91（黒褐色土，暗褐色土斑状)。

周溝覆土：72～90・92～96。72・78・79・84・85・89・92（黒褐色土主体)。73・75・88・90（暗褐色土主体)。74・76・81・94（暗褐色土と褐色土)。77・80・93（黒褐色土と暗褐色土)。82・87・95・96（褐色土主体)。83（極暗褐色～暗褐色土)。86（黒褐色土・暗褐色土・褐色土)。

墳丘及び周溝からの出土遺物（第16図）　約1,050点出土した。縄文土器317点，石器３点，弥生土器80点，土師器576点，須恵器21点，鉄滓４点，瓦２点，中小礫12点などである。１の須恵器壺は，石棺の蓋石④の北西コーナーの上45㎝のところに割れて出土した。５の土師器鉢は２区周溝から正位で出土したが，底部は割れており，底部破片は6.3mほど北西に離れて出土した。



第13図　平戸台８号墳測量図・調査状況図



第14図　平戸台８号墳周溝内等高線

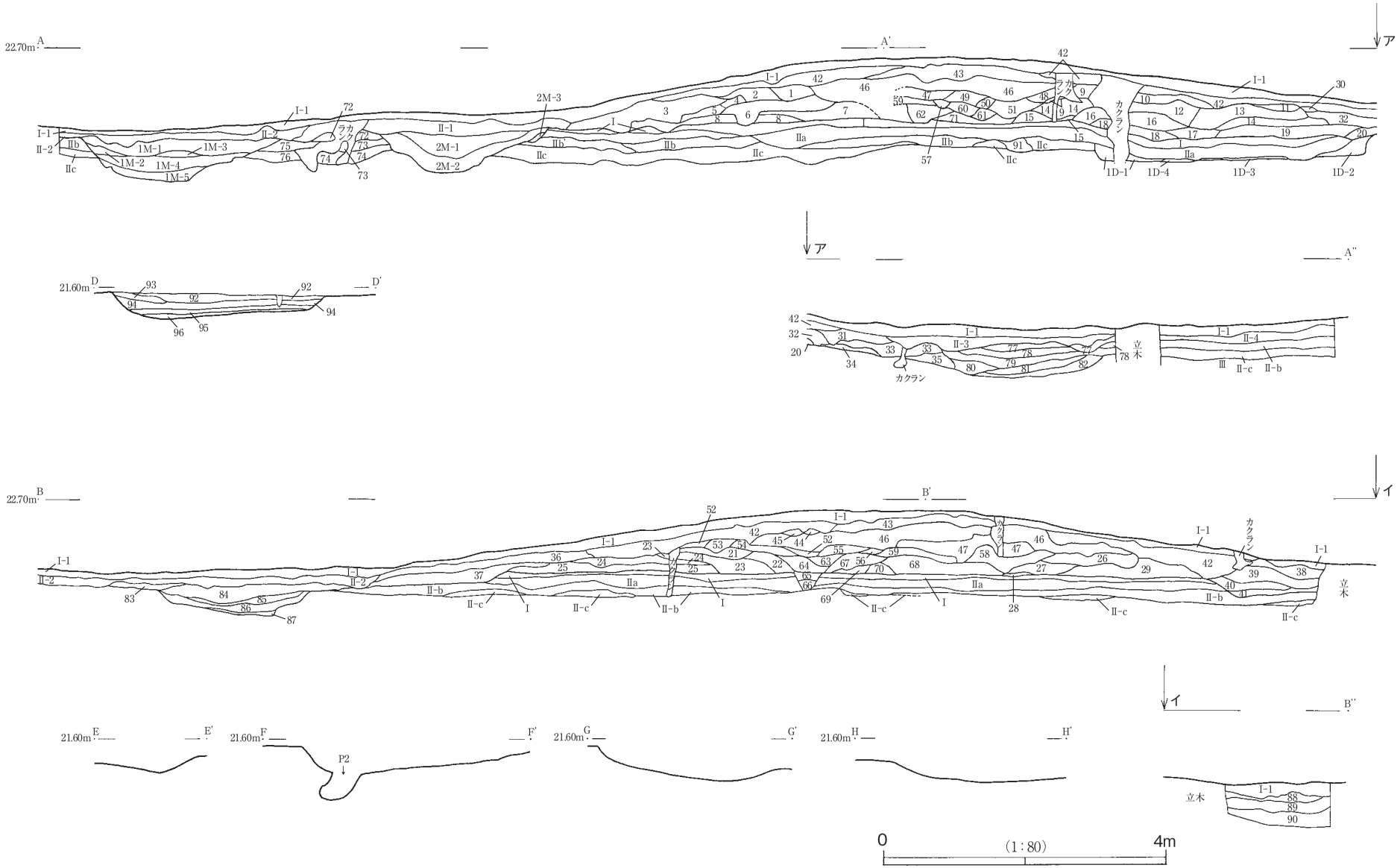
第11表　８号墳出土遺物観察表

須恵器

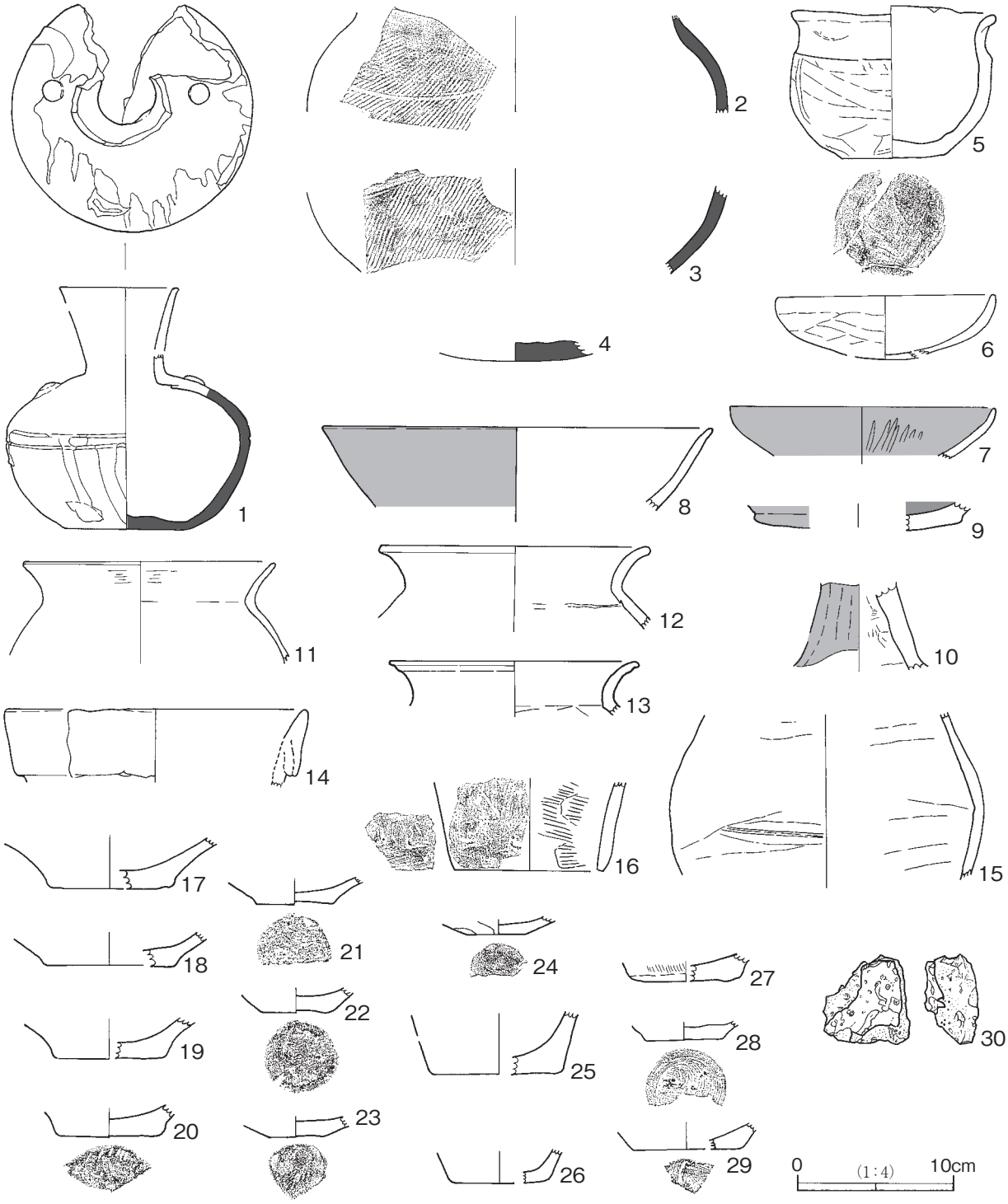
遺物№	取上げ№	器形	部位	計測値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	８Ｔ-190・194・185 ８Ｔ-171・２区墳丘	壺	略完形	高さ15.5, 復元口径7.7 頸部外径5.0 胴部最大径15.6 底部8.0	○緻密だが，所々に細～小礫（長石か）が含まれる。◎良 ●灰白色，灰緑色・淡黄褐色の自然釉	ロクロ成形。外）肩部に径1.4～1.5㎝の円形貼付文２箇所。胴部最大径部に横走沈線２条。胴下部に粘土貼付あるが，偶然か。内）頸部付近に段。胴下部に沈線状の筋３～４条。	
2	８Ｔ-41・42	甕か	胴上	復元上端外径21.0	○細砂，黒色粒子まばら　◎良 ●外）灰白色，黄白色自然釉　内）灰色	外）斜方向叩き目。 内）ナデ。	３と同一か
3	８Ｔ-43・45・83	甕か	胴下か	復元上端外径26.8	○細砂，黒色粒子まばら　◎良 ●外）灰青色，灰褐色　内）灰色	外）斜方向叩き目。 内）ナデ。	２と同一か
4	８Ｔ-232	壺か	底部	底径6.4	○粗砂，白色粒子　◎良 ●外）暗灰褐色　内）灰色	ロクロ成形。外）ナデ痕，円形に顕著。 内）ナデ。	

土師器

遺物№	取上げ№	器形	部位	計測値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
5	８Ｔ-１・34・35・39・51・１区周溝・２区周溝	鉢	略完形	高さ9.8, 口径13.2 底部6.8	○細砂，赤褐色粒子　◎脆い ●外）橙色，褐色　内）褐色，橙褐色 割れ口）淡褐色	外）口縁部横方向ナデ，稜，体部は横・縦方向ヘラ削り。底外）ヘラ削り。 内）横方向ナデ。	
遺物№	取上げ№	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
6	８Ｔ-219・220 217　218・２区墳丘　219	坏	口縁～底１／４	高さ4.2 口径14.0	○細砂，粗砂少　◎良 ●外）暗褐色，褐色まだら　内）褐色，淡褐色，暗褐色	外）横方向ミガキ・ヘラ削り。 内）ナデ，ミガキ，平滑。	
7	８Ｔ-３区墳丘・４区墳丘	坏	口縁～体上	口径17.2	○細砂　◎良 ●外）赤褐色，暗赤褐色　内）赤褐色	内外面赤彩　外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ，縦方向ミガキ。	
8	８Ｔ-88	高坏	口縁	口径25.2	○粗砂，赤褐色粒子　◎良　●外）暗赤褐色，赤褐色，黒色付着物　内）暗褐色，黒色	外）赤彩，ナデ，ミガキ。 内）ナデ，ミガキ。	
9	８Ｔ-179・204	高坏か	坏底部	底径13.4	○細砂　◎良 ●外）赤褐色，暗赤褐色，黒褐色　内）黒色	外）赤彩，ナデ，ミガキ，端正な作り。 内）内面黒色処理，ナデ，平滑。	
10	８Ｔ-３・216・３区	高坏	脚	上端4.8，下端8.6	○細砂　◎良 ●外）赤褐色　内）淡褐色	外）赤彩，縦方向ミガキ。 内）凹凸・輪積痕あり，ナデ。	
11	８Ｔ-170	甕	口縁～胴上	口径20.2	○細砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色，黒褐色まだら　内）褐色，暗褐色	外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ，ミガキ。	
12	８Ｔ-225・114　３区墳丘	甕	口縁～胴上	口径17.6	○粗砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）赤褐色，暗褐色　内）赤褐色	外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ，輪積痕。	
13	８Ｔ-227・315	甕	口縁～頸部	口径16.0	○細砂，粗砂少，赤褐色粒子　◎良 ●外）褐色，暗褐色　内）褐色，橙褐色，黒色まだら	外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ。	
14	８Ｔ１区	壺	複合口縁	口径19.2	○粗砂，細礫（石英・長石）　◎良 ●外）橙褐色，褐色　内）褐色，灰色	外）ナデ。 内）ナデ，剥離。	
15	８Ｔ-196・２区墳丘　３区墳丘	甕か	胴	胴部最大径20.2	○粗砂，細礫　◎良 ●外）黒褐色，灰黒色　内）褐色，淡褐色	外）横～斜方向ナデ，ミガキ。 内）横～斜方向ナデ。	
16	８Ｔ-277 176	甑	底縁	底径9.6	○赤褐色粒子・粗砂極まばら　◎良 ●橙褐色	外）縁付近は横方向ナデ，上は縦方向ヘラ削り・ナデ。内）斜～横方向ナデ痕顕著。	



第15図　平戸台８号墳断面図



第16図　平戸台８号墳出土遺物実測図

17	８Ｔ-230・ ４区墳丘	甕か	底部	底径7.7	○細砂　◎やや脆い ●外）褐色，灰褐色　内）黒色，灰褐色	外）ナデ。底外）ナデ。 内）ナデ。	
18	８Ｔ-394・ 412　３区墳丘	甕か	底部	底径8.8	○赤褐色粒子　◎良 ●赤褐色	外）ナデ　底外）ヘラ削り。 内）ナデ。	
19	８Ｔ-414	甕	底部	底径7.2	○粗砂多　◎やや脆い ●外）暗褐色　内）黒褐色	外）ナデ，ミガキ　底外）ナデ。 内）ナデ，亀裂あり。	
20	８Ｔ-229	甕	底部	底径6.2	○粗砂少　◎やや脆い ●外）褐色　内）灰褐色	外）横方向ナデ　底外）ナデ，窪みが並ぶ。 内）ナデ，工具痕あり。	
21	８Ｔ-127	甕	底部	底径4.9（実測）	○粗砂　◎良 ●外）淡褐色　内）淡橙褐色	外）横方向ナデ　底外）ナデ。 内）ナデ。	
22	８Ｔ-49	甕	底部	底径4.2	○粗砂，赤褐色粒子　◎やや脆い ●外）淡橙色，灰黒色　内）淡橙褐色	外）ナデ　底外）ナデ。 内）ナデ，肌荒れ。	
23	８Ｔ-103	甕	底部	底径3.3	○細砂，赤褐色粒子　◎良 ●外）赤褐色　内）暗赤褐色	外）ナデ　底外）ヘラ削り後ナデ。 内）ナデ。	
24	８Ｔ-308	甕	底部	底径3.6	○赤褐色粒子多　◎良 ●外）橙褐色，黒褐色　内）黒褐色	外）横方向ヘラ削り　底外）ヘラ削り。 内）ナデ，亀裂あり。	
25	８Ｔ-91・86	甕	底部	底径8.5	○細砂，赤褐色粒子　◎やや脆い ●外）淡褐色，淡灰褐色　内）赤褐色，暗褐色	外）縦方向ミガキ，横方向ナデ　底外）ナデ。 内）ナデ。	

26	８Ｔ-99	甕か	底部	底径6.4	○粗砂　◎やや脆い ●外）淡褐色　内）灰色	外）ナデ，ミガキ　底外）ナデ 内）ナデ。	
27	８Ｔ-４区墳丘	甕	底部	底径6.0	○粗砂少　◎やや脆い ●灰褐色	外）縦方向ハケ　底外）ナデ痕 内）ナデ。	
28	８Ｔ-215	甕か	底部	底径5.0	○粗砂　◎良 ●外）橙褐色，褐色　内）褐色，赤褐色	ロクロ成形　外）横方向ナデ 底外）回転糸切痕　内）ナデ。	
29	８Ｔ-１区墳丘	甕か	底部	底径7.0	○細砂　◎やや脆い ●外）淡褐色　内）赤褐色	ロクロ成形　外）横方向ナデ 底外）回転糸切痕　内）ナデか。	

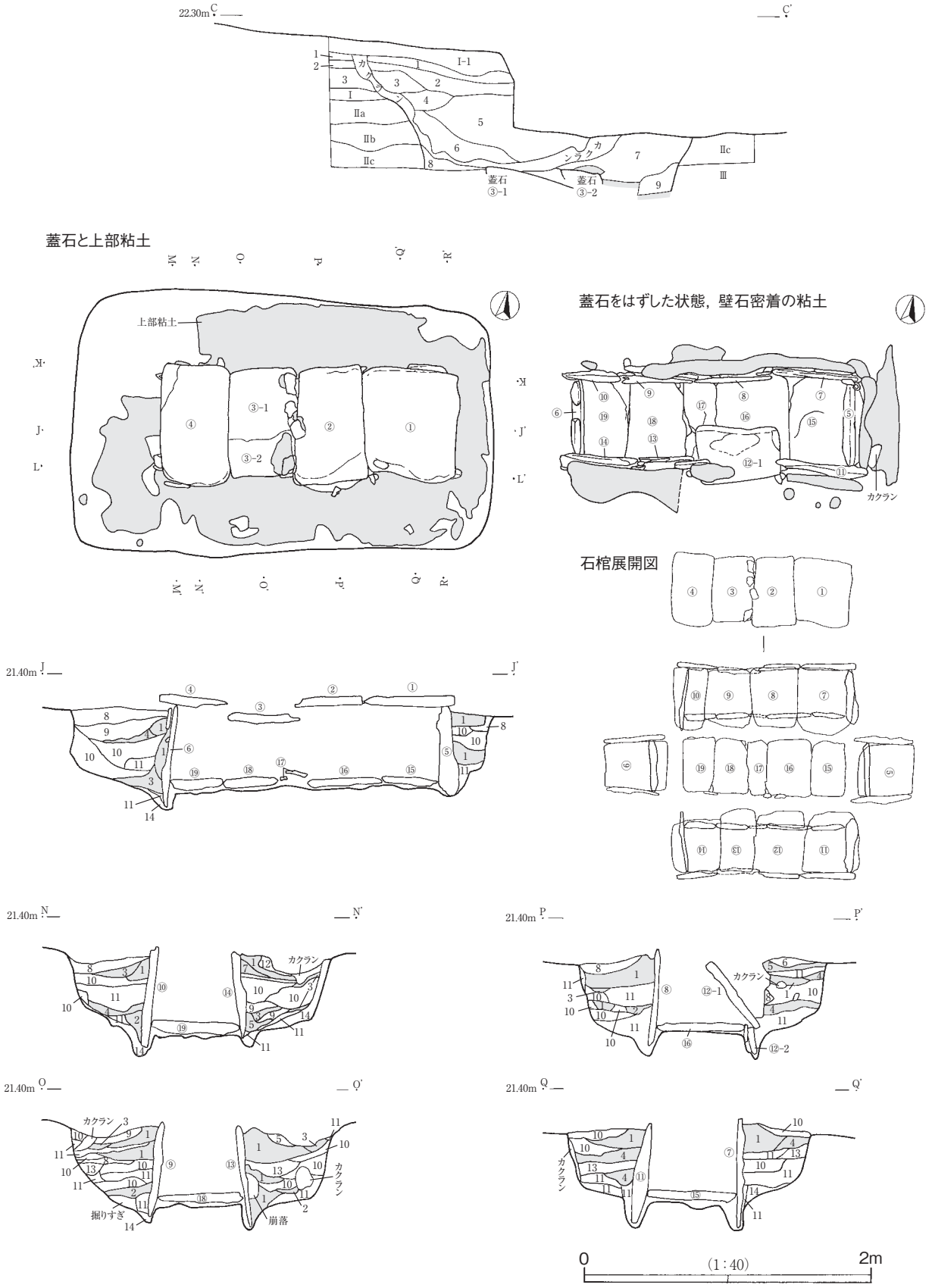
遺物№	取上げ№	器種	部位	計測値（㎜）	その他の特徴	時期等
30	８Ｔ-89	鉄滓		58×54×35，重さ62.0ｇ	灰色有孔物質（焼けた粘土であろう）→多孔質部分→タール状と，変化する。製錬炉の炉壁か。	

２　箱式石棺（第一主体部）（第17図～18図）

位置　墳丘の南側の裾部。C-C´土層　１・５・７・８（暗褐色土主体）。２・３（暗褐色土・黒褐色土）。４（褐色土主体）。６（暗褐色土･褐色土）。９（黒褐色土）。10（崩落土）。**掘り方**　長軸2.95ｍ，短軸1.67～1.82ｍの隅丸長方形の土坑である。底面の深さは不安定だが，概ね検出面から55㎝。壁石樹立溝は，幅12～28㎝，深いところで，検出面から75㎝で，壁石は基部の10～26㎝が埋められていた。この溝に囲まれて，長軸1.82ｍ，短軸は東側52㎝，西側60㎝の範囲が土台として掘り残され，そこに7.5YR４/３・４/４，緻密度０～３の軟弱な褐色土が敷かれ，その上に床石が設置された。**石棺**　19枚の板石からなる組合せ式箱式石棺である。蓋石は４枚。上面の標高は，安定したところが21.25ｍである。③とした石が割れて石棺内に落ち込んでいた。この③と②の間を埋めるように粘土と割石が付けられていた。小口壁は東西各１枚，側壁は南北各４枚で，合計10枚である。これらのうち⑫とした壁石が，基部から11～19㎝の高さところで割れて石棺内に倒れて込んでいた。棺内の深さは50～52㎝である。床石は５枚。長軸1.87ｍ，短軸60㎝の床面が作られていた。床面の標高は20.66～20.69ｍである。⑰とした小さな床石は極めて脆い石材で，中央が割れて盛り上がっていた。盛り上がった原因はよくわからないが，壁石⑫が割れて内側に倒れ込んだ際に⑰を圧迫したのかもしれない。主たる石19枚以外に同質の割石約50点が，石棺の外側にあった。板石の間の隙間を埋めるように付けられているものが多いが，特に理由のわからないものもあった。**石材**　粉状の細かい雲母が入る雲母片岩で，筑波山南部に産出される筑波変成岩類である。風化が進んでいるため全体に脆く，③･⑫･⑰のように割れてしまった石もある。また，主たる19枚の石は，平戸台２号墳の石棺の石などに比べて薄く小振りに作られているため，大人１～２名で運搬可能な重さのものばかりであった。**裏込め状況**　石棺を補強するように粘土が貼られ，その外側は粘土と土が交互に埋められていた。概ね下部と上部の二枚の粘土層が造られている。J-J´・N-N´・O-O´・P-P´・Q-Q´の土層：１～13。１（純度の高い10YR６/２灰黄褐色粘土）。２（粘土・褐色土）。３（粘土・暗褐色土）。４（粘土・暗褐色土・褐色土）。５（粘土・暗褐色土・黒褐色土）。６（粘土･石棺の石が粉状になったような灰青色物質）。７（にぶい黄橙色粘土）。８（暗褐色土）。９（暗褐色土・黒褐色土）。10（褐色土・暗褐色土）。11（褐色土）。12（黒褐色土）。13（褐色土・暗褐色土・黒褐色土）。14（全掘時掘り広がり）。

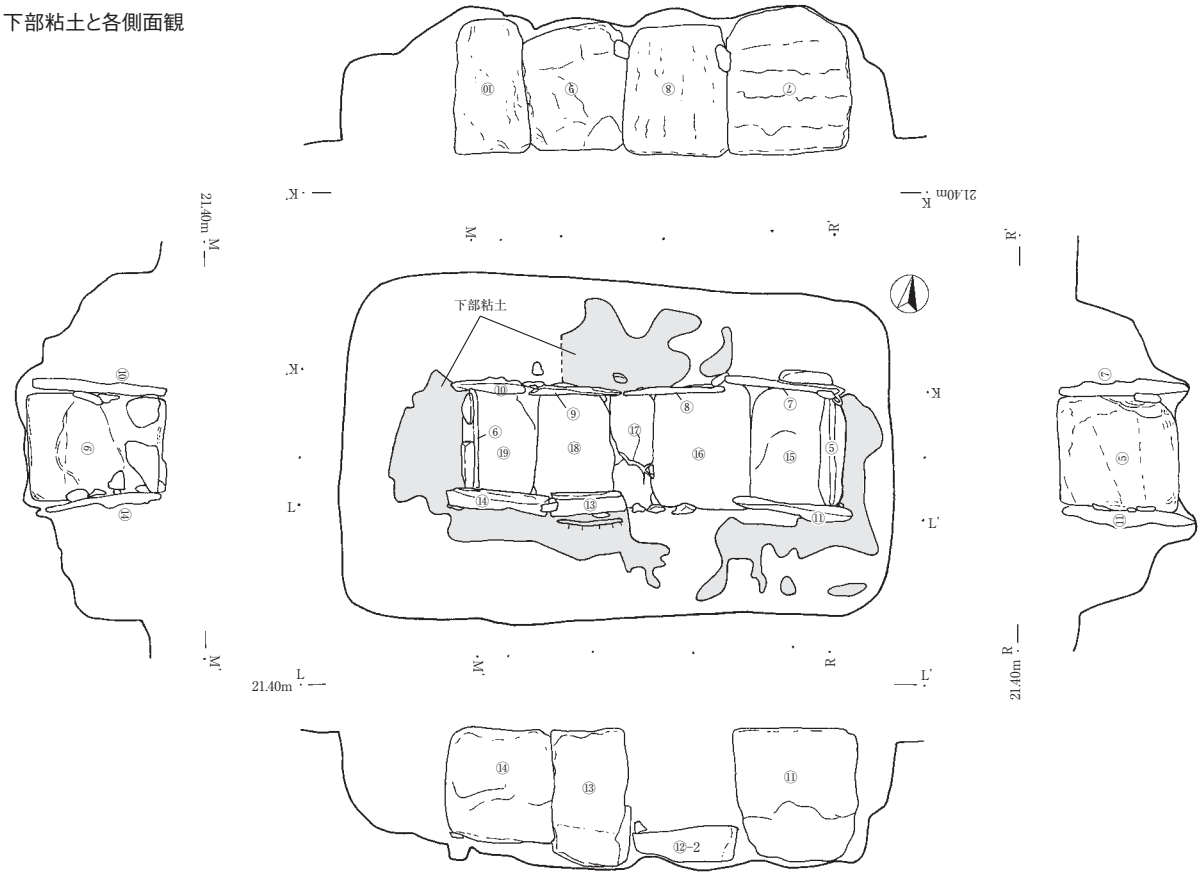
石棺内出土遺物（第19図～22図）　蓋石を開けると土が棺内を覆っていた。この土を深さ30㎝ほど掘ると人骨が現れ始めた。人骨は，床面から高さ18.5㎝までの範囲内に遺存していた。土に埋まっていたためか人骨の状態は悪かった。成人骨が３体分，幼児骨が２体分，乳児が１体分合計６体と分析された（第４章参照）。１号人骨が最初に埋葬され，追葬の際に足側（西側）に片付けられたらしい。２号・３号が並んでいるが３号人骨が最も良く残っていた。副葬品は，直刀が南北の側壁沿いの床面に各１振り，計２振りあった。北を１号直刀・南を２号直刀とした。２号は割れていた。１号直刀の茎部脇に鍔が単独で出土した。２号直刀脇に鉄鏃が１本（17）床面上に出土した。北壁の西寄り，２号人骨の右膝の辺りに鉄鏃と玉類が集中して出土した。鉄鏃はここに10本分あり，床面から4.5～9.5㎝上の位置で

あった。玉は，石製の管玉３点・棗玉１点・臼玉２点，ガラス製の小玉４点，合計10点である。床面から1.8～5.9㎝上の位置であった。

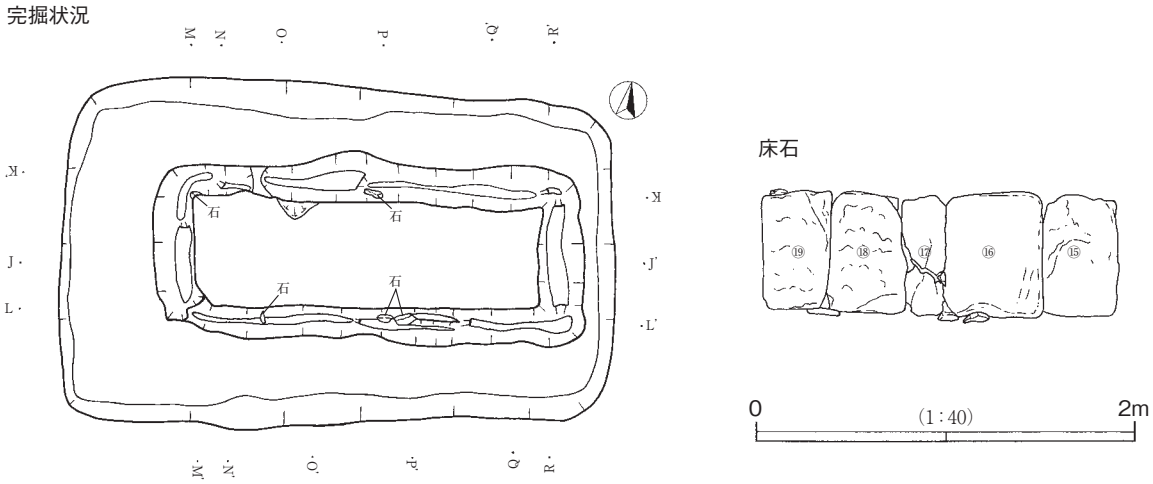


第17図　石棺実測図（1）

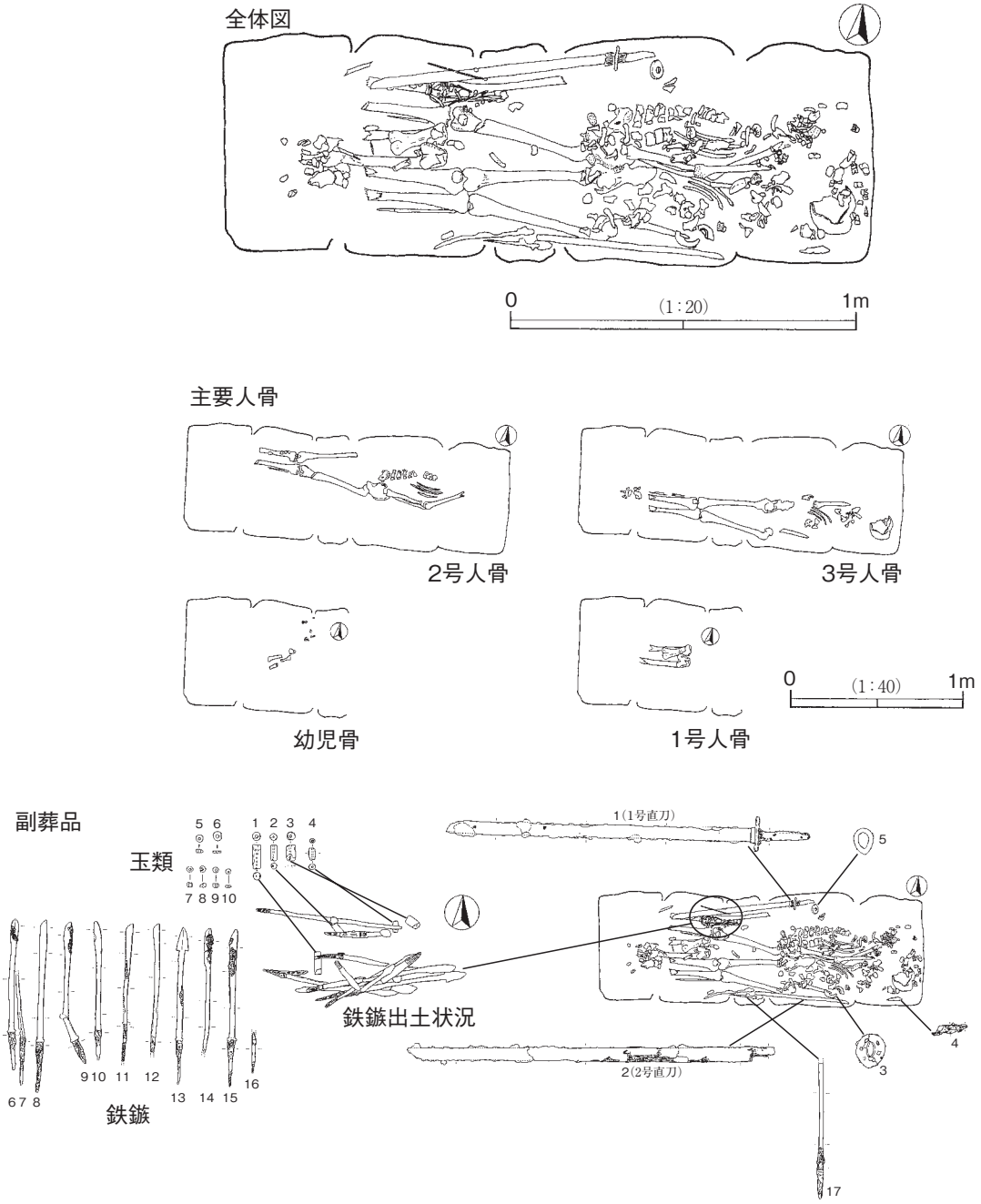
下部粘土と各側面観



完掘状況



第18図　石棺実測図（2）



第19図　石棺内遺物出土状況

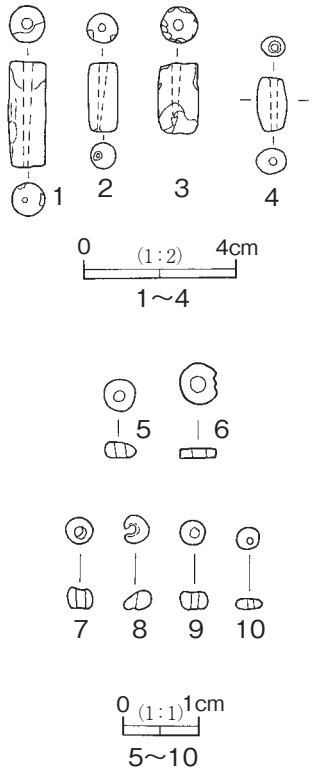
第12表　石棺内出土玉類計測表

石製品

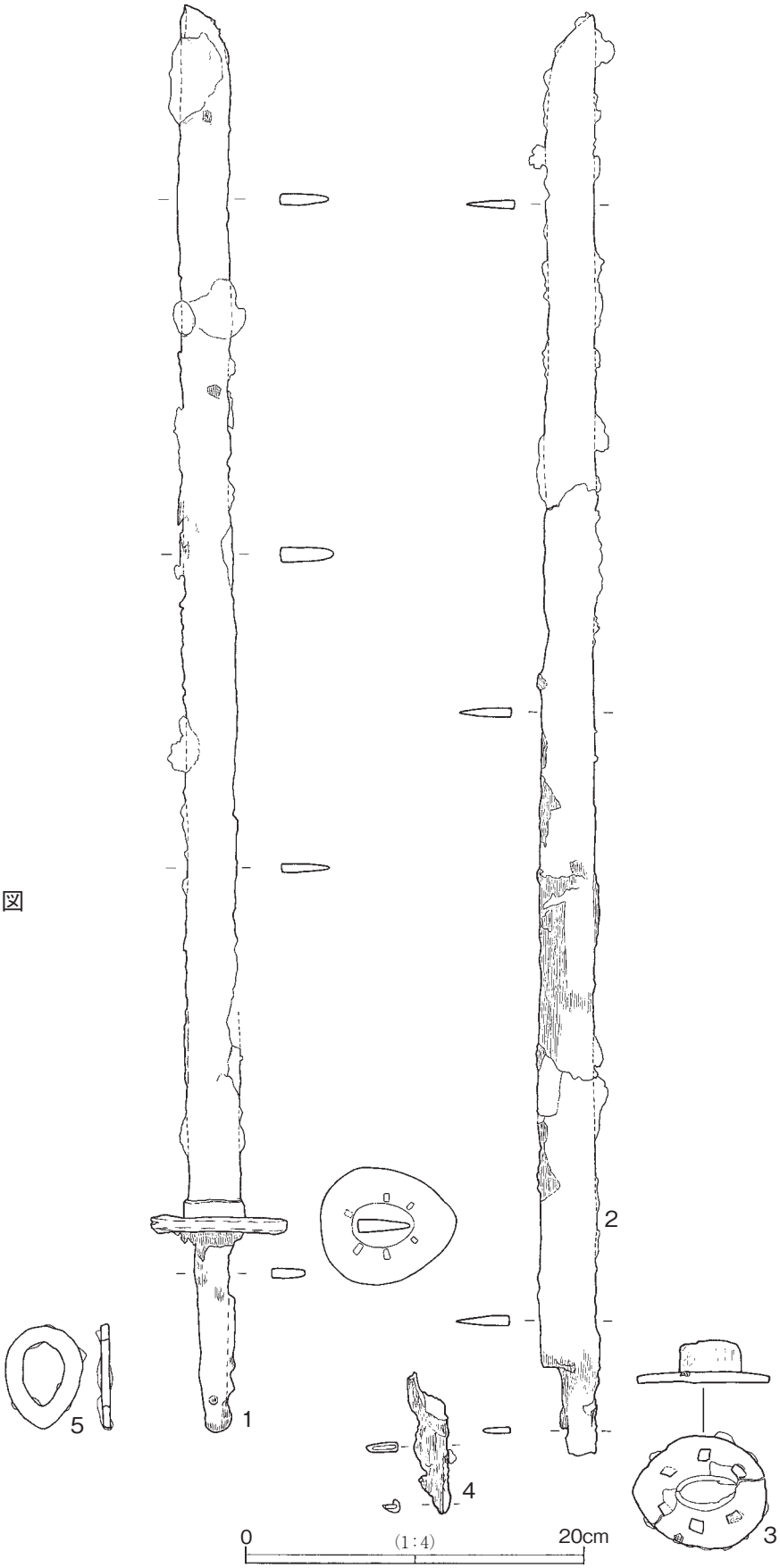
遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（mm）	整形・調整・文様などの特徴	石材	時期等
1	8 T-434	管玉	完形	径10.1～10.3，長さ27.4，孔径3.1～1.5，重さ5.3 g	白色物質が固着。磨ききれずに窪みになっている所あり。暗緑色。	碧玉	
2	8 T-438	管玉	完形	径8.2～8.5，長さ18.5，孔径2.2～0.8，重さ2.5 g	傷は少ない。暗緑色。	碧玉	
3	8 T-435	管玉	破損品	径10.5，長さ18.1，孔径2.9，重さ3.6 g	割れ口は滑らかなので，磨かれているらしい。暗緑色。	碧玉	
4	8 T-437	棗玉	完形	径8.5，長さ14.3，厚さ5.9～7.5，孔径2.4，重さ1.5 g	灰色。		
5	8 T-436	臼玉	完形	径4.6，長さ2.0，孔径1.6	表面なめらか。灰色～灰褐色，黒色。		
6	8 T一括	臼玉	一部欠	径5.5～4.8，長さ1.3，孔径1.7	脆い。白色。		

ガラス製品

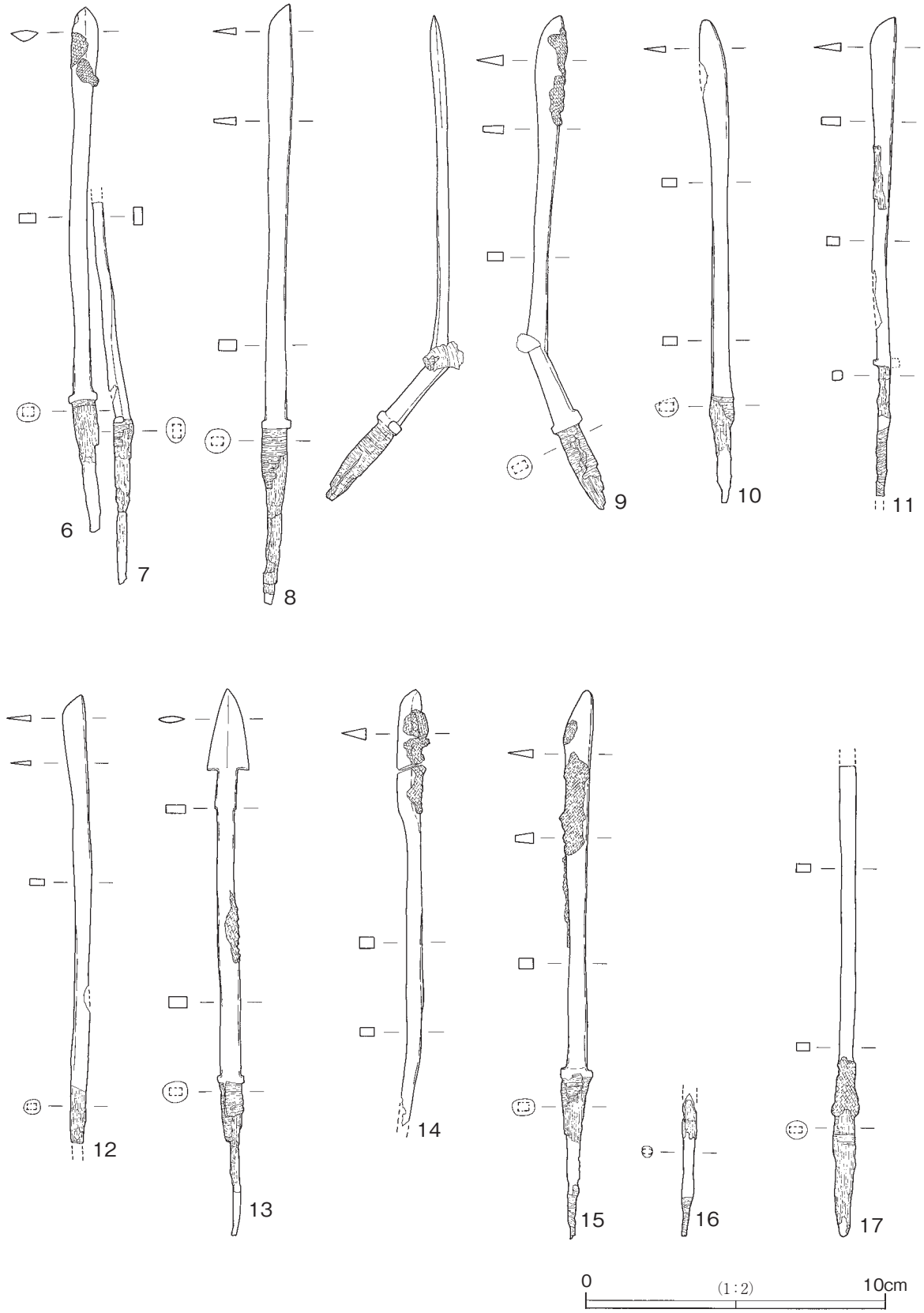
遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（mm）	その他の特徴	時期等
7	8 T一括	小玉	完形	径3.5，長さ3.1，孔径1.2	水色。	
8	8 T一括	小玉	欠損	径3.4～3.8，長さ2.6，孔径－	水色。	
9	8 T一括	小玉	完形	径3.4～3.5，長さ2.5，孔径1.1	水色。	
10	8 T一括	小玉	完形	径2.9～3.0，長さ1.4，孔径1.1	水色。	



第20図　石棺内出土玉類実測図



第21図　石棺内出土鉄製品実測図（直刀）



第22図　石棺内出土鉄製品実測図（鉄鏃）

第13表　石棺内出土鉄製品計測表

遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（㎜）	その他の特徴	時期等
1	１号直刀	鉄刀	略完形	全長844，刀身長717，身幅28～33，背幅５～９， 茎長119，茎幅15～22，茎厚６，目釘径４，鍔径80.5×69.5，厚８	茎部に木質が残る。 鍔の透かし孔は６箇所，錆で塞がっている。	
2	２号直刀	鉄刀	折損	全残存長852.5，刀身長800.5，身幅29～33，背幅５～6.5， 茎残存長52，茎幅16～19.5，茎厚４～５	３つに割れている。 木質あり。錆化激しい。	
3	Ⅰ-12～14	鍔	２号直刀の鍔	鍔径78.5×66.5，厚３～６，透かし孔６×９，重さ44.3ｇ	布のような付着物あり。	
4	Ⅰ-11	茎	２号直刀の茎	残存長85，茎幅19，茎厚５，重さ12.8ｇ	木質付着。	
5	Ⅰ-19	鍔		径61.5×45.5，孔径38×25,厚さ4.5，重さ23.9ｇ	１号直刀脇で出土。	
6	Ⅰ-１・Ⅰ-２・一括	鉄鏃	略完形	現存長176，鏃身長129，刀長30，箆被長99，茎長47， 口巻長２，刀幅９，棘状突起幅10	茎部に木質あり。 刀部に布付着。	
7	Ⅰ-２・Ⅰ-22	鉄鏃	刀部欠損	現存長128，鏃身長73，刀長－，箆被長－，茎長56， 口巻長８，刀幅－，棘状突起幅５	茎部に木質あり。	
8	Ⅰ-４・一括	鉄鏃	略完形	現存長201，鏃身長138，刀長47，箆被長91，茎長63， 口巻長20，刀幅９，棘状突起幅10	茎部に木質あり。	
9	Ⅰ-５・Ⅰ-3	鉄鏃	２片癒着	Ⅰ-５：現存長115，刀長43　，刀幅９ Ⅰ-3：現存長58，茎長32、口巻長19，棘状突起幅12	刀部に布付着。 茎部に木質あり。	
10	Ⅰ-15・Ⅰ-６	鉄鏃	略完形	現存長162，鏃身長125，刀長40，箆被長85，茎長37， 口巻長８，刀幅８，棘状突起幅８	茎部に木質あり。	
11	Ⅰ-７・一括	鉄鏃	略完形	現存長160，鏃身長114，刀長33，箆被長81，茎長46， 口巻長－，刀幅９，棘状突起幅８	茎部に木質あり。 鏃身部に木片付着。	
12	Ⅰ-16・Ⅰ-８	鉄鏃	茎部欠損	現存長150，鏃身長131，刀長27，箆被長104，茎長19， 口巻長－，刀幅８，棘状突起幅６	茎部に木質あり。	
13	Ⅰ-10・一括	鉄鏃	略完形	現存長183，鏃身長129，刀長27，箆被長102，茎長54， 口巻長２，刀幅14，棘状突起幅10	茎部に木質あり。 鏃身部に布付着。	
14	Ⅰ-17	鉄鏃	茎部欠損	現存長146，鏃身長－，刀長43，箆被長103，茎長－， 口巻長－，刀幅８，棘状突起幅－	刀部に布付着。	
15	Ⅰ-18・一括	鉄鏃	略完形	現存長185，鏃身長127，刀長35，箆被長92，茎長58， 口巻長11，刀幅９，棘状突起幅11	茎部に木質あり。 刀部に布付着。	
16	Ⅰ-９	鉄鏃	茎部	現存長48，茎幅５	木質あり。	
17	Ⅰ-20	鉄鏃	刀部欠損	現存長158，鏃身長114，刀長－，箆被長－，茎長44， 口巻長13，刀幅－，棘状突起幅８	茎部に木質あり。鏃身部に布付着。 ２号直刀脇の床面から出土。	

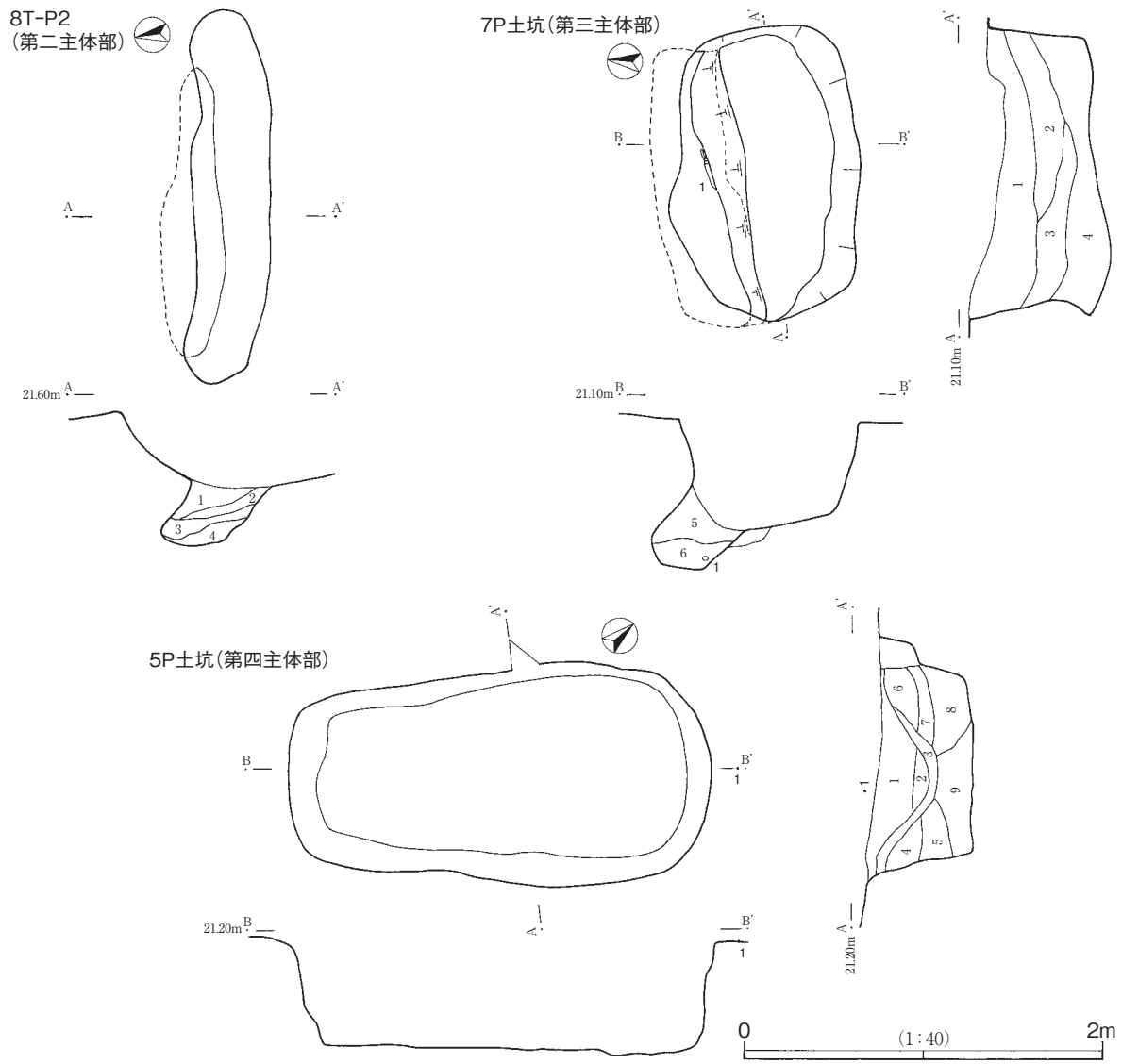
３　その他の墓坑（第23図～24図）

周溝内に３基の土坑が検出された。有天井土坑，副葬品と考えられる短刀の出土など，墓坑の好資料である。古墳を意識して造られたものと思われ，関連のあるものとして第二～第四主体部と捉えた。３基とも覆土をサンプリングし，その一部を篩ったが，遺物の新たな発見は無かった。

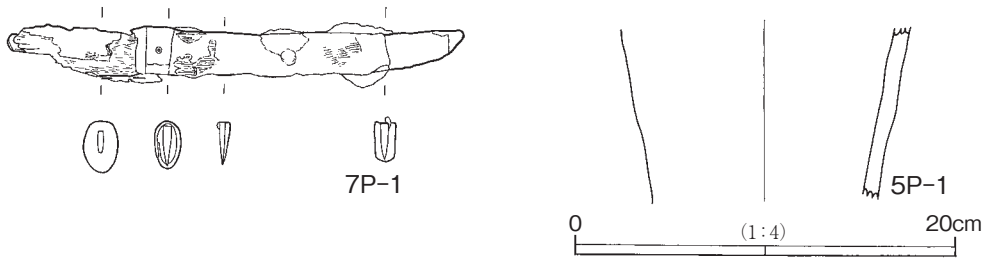
８Ｔ-Ｐ２土坑（第二主体部）　**位置**　８号墳２区の周溝内，内側壁直下の溝底。**平面形態**　長楕円形。**底面形態**　長楕円形。オーバーハング。**規模**（㎝）210×45，深さ38。**覆土**　１:7.5YR３/２・３/３（黒褐色土・暗褐色土）。径５～10㎜ロームブロックをまばらに含む。径１～３㎜黄色スコリアを多量含む。２：7.5YR３/３・４/３・４/４（暗褐色土・褐色土）。径１～３㎜黄色スコリアを多量含む。径５㎝ロームブロック，多量の黄色スコリアを含む。３：7.5YR３/３・４/３。黄色スコリア１と同様。４：7.5YR４/３・４/４。**出土遺物**　なし。**特記事項**　有天井土坑。周溝の内側壁に沿って掘られている。

７Ｐ土坑（第三主体部）　**位置**　８号墳４区の周溝内。**平面形態**　隅丸長方形。**底面形態**　長方形。オーバーハング，有段。**規模**(㎝)164×109，深さ54～85。**覆土**　埋土であろう。１～４の層界は明瞭。1：7.5YR４/３・４/４（褐色土）。径１～５㎝ロームブロックまばらに含む。２：7.5YR４/３・４/４・４/６（褐色土）。径１～20㎝ロームブロックを多量含む。３：7.5YR４/３・４/４。径１～２㎝ロームブロックをまばらに含む。４：7.5YR４/３・４/４・４/６。径１～５㎝ロームブロックを多量含む。５：7.5YR４/３。径0.5～１，３～５㎝ロームブロックを含む。径２㎜以下の黄色スコリアを多量含む。６：7.5YR４/３・４/４。ロームブロック・黄色スコリアを含む。**出土遺物**　６層中に短刀出土。副葬品であろう。縄文土器３点。**特記事項**　有天井土坑。

５Ｐ土坑（第四主体部）　**位置**　８号墳３区の周溝内～外。**平面形態**　長方形。**底面形態**　長方形。平坦。**規模**（㎝）237×119，深さ49～63。**覆土**　埋土であろう。１：7.5YR３/２・３/３（黒褐色土・暗褐色土）。径１㎜以下の黄色スコリアを含む。２：7.5YR２/２・３/２（黒褐色土）。黄色スコリア１と同様。３:7.5YR３/２・３/３・４/３（褐色土）。まだらな色。４:7.5YR４/３。暗褐色土がにじむ。５：7.5YR３/４（暗褐色土）。径５㎜ロームブロックをまばらに含む。６：7.5YR３/３・４/３。ロームブロック５と同様。７:7.5YR４/４・４/３。径0.5～２㎝ロームブロックをまばらに含む。８:7.5YR４/３。径0.5～１㎝ロームブロックを含む。９：7.5YR４/３・４/４。ローム・炭化材小片を含む。**出土遺物**　土師器４点，瓦２点であるが，覆土よりも浮いて出土したものが多く図示した土師器も５Ｐの外側出土である。**特記事項**　石棺より一回り大きい規模である。



第23図　8T-P2・7P・5P各土坑実測図



第24図　7P・5P各土坑出土遺物実測図

第14表　７Ｐ土坑出土鉄製品計測表

遺物No.	取上げNo.	器種	部位	計測値（mm）	その他の特徴	時期等
1	７Ｐ－１	短刀	略完形	全長241.5，刀身長153.5，鞘元長14，茎長74， 身幅21～23，背幅３～４，茎幅９～12，茎厚２～３，重さ71.8ｇ 柄復元値：幅27.5，厚19，目釘孔径３	茎部に木質が残る。	

第15表　５Ｐ土坑出土遺物観察表

遺物No.	取上げNo.	器形	部位	復元値（cm）	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	５Ｐ－４	甕	胴下	上端径15.2	○細砂，粗砂，雲母　◎良　●外）褐色，灰褐色　内）褐色，灰黒色，黒色（炭化物付着）	外）縦方向ナデ・ミガキ 内）縦方向ミガキ。	

第３章　成果と課題

今回，調査した遺構は，古墳１基，竪穴住居跡１軒，土坑９基，溝跡２条である。遺物は，土器・土製品・石器・石製品・鉄器・鉄製品・小礫など合計1,977点であった。他に炭化材・人骨・箱式石棺とその石片などが出土した。以下に今回の調査の成果をまとめたい。

１　平戸台８号墳

今回の調査における成果の中心である。

古墳の形態は，やや不整な円墳，直径15～16.6mと小型で，高さ0.7m前後の低い墳丘である。

主体部は，墳丘の南側裾部に石棺があった。筑波変成岩類を19枚用いた組合せ式箱式石棺である。八千代市内では，このような箱式石棺をもつ古墳は，平戸台古墳群のほか間見穴古墳群，真木野古墳，神野芝山古墳群，栗谷古墳，桑納古墳群など市域北部に集中し，市域南部には堰場台古墳１例のみである。

埋葬された人骨は，少なくとも成人男性３体，幼児２体，乳児１体の合計６体分と分析された。１号人骨は片付けられており，明らかに追葬が行われたことがわかる。なお，市内出土の古墳時代人骨の分析事例としては６例目となった（第16表）。

副葬品は，直刀２振り，鉄鏃11本分，鍔１点，管玉３点，棗玉１点，臼玉２点，ガラス製小玉４点であった。直刀については，今後，Ｘ線写真撮影によって象嵌の有無や目釘孔径などを，より正確に調べる必要がある。

墳丘からは多くの遺物が出土したが，古墳に伴うものとしては，石棺蓋石の北西コーナー上から出土した須恵器壺１点がある。

周溝からも多くの遺物が出土したが，代表的遺物としては，略完形の土師器鉢１点である。

各種遺物や箱式石棺の形態，追葬が行われていることなどから，平戸台８号墳は７世紀前半の古墳と判断される。

石棺以外に，古墳周溝内から３基の墓坑が検出された。長方形土坑１基，有天井土坑２基で，後者のうち１基には短刀が出土した。なお，有天井土坑は，八千代市内では間見穴遺跡003号墳（千葉県文化財センター2004年ｂ），役山東遺跡（八千代市遺跡調査会2004年ａ），向境遺跡（八千代市遺跡調査会2004年ｂ），おおびた遺跡ｂ地点，井戸向遺跡（千葉県文化財センター1987年）に検出例がある。

平戸台８号墳の調査成果は，当地域の古代における葬送の一端を示すものである。平戸台２号墳や間見穴古墳群と比較し，さらに他地域と比較検討することにより，平戸台古墳群の個性などを抽出できるであろう。今後，多方面で活用されることを期待するものである。

２　縄文時代

遺構は，土坑２基・炉跡１基を検出した。８Ｐ土坑は，縄文中期初頭の遺構と考えられる。３Ｐ土坑は，浅い土坑が重複しており，縄文土器は前期末～中期初頭及び中期後葉の土器が確認された。この他，弥生土器や土師器まで出土しており，時期の捉え方は難しい。６Ｐ炉跡には遺物が伴わなかった。

縄文時代遺物は，遺構内外から土器類483点以上，石器３点，チャート剥片１点が出土した。時期は，早期・前期・中期・後期と考えられ，前期後半～中期初頭と後期後葉が中心である。所属時期決定困難なものもあり，今後の分析が必要である。

３　弥生時代

遺構は，竪穴住居跡１軒を調査した。８号墳の墳丘下に埋もれていた。古墳と弥生住居が重なる事例

は，平戸台２号墳においても確認されている。

弥生土器は118点以上が得られたが，小破片がほとんどである。複合口縁の甕，附加条縄文，結節文，口唇部の明瞭な刻み，底面木葉痕などが見られる。印旛沼沿岸地域に一般的な弥生時代後期の土器である。

４　奈良・平安時代

並行して存在する２条の溝跡と土坑１基を調査した。

２条の溝跡は，いずれも南西部では重複や掘り返しが見られ，単純な１条ずつの溝とは限らない。

溝跡２条は，概ね２～2.5mの間隔を保持しており，同時に存在したものと考えられるが，道路に伴う側溝のような状態ではない。なお，８号墳の北に高まりが認められ（第13図），この高まりは両溝の間に土塁があった可能性を示唆するものかもしれない。現地調査時には，立木と廃棄物の堆積があったため意味のある高まりとして認識できなかった。またｅ地点の北東約175mの地点では，千葉県文化財センターが平成９年度に調査を行い，５条の溝（091号跡～095号跡）が並行して北東－南西方向に走っていることを確認している（千葉県文化財センター2004年ａ）。方向性から見て，今回の１M溝跡・２M溝跡とつながる可能性が高い。

第16表　八千代市における古墳出土人骨一覧表

古墳名	墳丘		埋葬施設						
	墳形	規模		成人男	成人女	不明	成人計	未成年	総数
平戸台２号墳	不明	径15mか	箱式石棺	5	4	2	11	4	15
堰場台古墳	不明	不明	箱式石棺	0	6	2	8	3	11
神野芝山２号墳	円墳	径30m	箱式石棺	4	2	0	6	2	8
平戸台８号墳	円墳	径16m	箱式石棺	3	0	0	3	3	6
真木野古墳	円墳	径40m	箱式石棺	3	1	0	4	1	5
栗谷古墳	円墳か	不明	箱式石棺						2
平戸台１号墳	方墳	不明	箱式石棺	下肢骨と歯					
沖塚古墳	円墳	径23m	横穴式石室	5	0	1	6	3	9
村上１号墳	方墳	28×20m	横穴式石室	歯５点と人骨粉					

文献

千葉県立八千代高等学校八千代史学会（1971）「平戸台１号墳発掘調査概報」，『史学報』２

八千代市教育委員会（1986）『千葉県八千代市平戸道地遺跡－農業道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

財団法人千葉県文化財センター（1987）『八千代市井戸向遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－』

八千代市教育委員会（2001）『千葉県八千代市平戸台２号墳発掘調査報告書』

八千代市教育委員会（2002）『千葉県八千代市市内出土人骨分析委託報告書』

八千代市教育委員会（2003）『千葉県八千代市市内出土人骨分析委託報告書Ⅱ』

八千代市遺跡調査会（2004ａ）『千葉県八千代市栗谷遺跡　役山東遺跡　雷南遺跡　雷遺跡　（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－第３分冊－』

八千代市遺跡調査会（2004ｂ）『千葉県八千代市向境遺跡　（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』

財団法人千葉県文化財センター（2004ａ）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書２－八千代市道地遺跡－』

財団法人千葉県文化財センター（2004ｂ）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書３－八千代市間見穴遺跡－』

財団法人千葉県教育振興財団（2006）『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書５－八千代市島田込ノ内遺跡（２）・間見穴遺跡（３）・道地遺跡（２）－』

八千代市教育委員会（2009）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成20年度』

第４章　人骨の分析 ―平戸台８号墳石棺出土人骨―

国立科学博物館人類研究部　　梶ヶ山　真　里
馬　場　悠　男

１．緒言

平戸台８号墳は，千葉県八千代市平戸字西ノ上に所在する古墳であり，石棺や副葬品から７世紀初め～半ばと推測される時期のものである。写真および図面から判断する限り，人骨は石棺のほぼ全域から出土している。完全ではないが解剖学的な配列を伴う個体が２体と，その足元に集骨したと思われる成人１体と幼児１体分の人骨と歯が検出されている。以下，その被葬者について個体ごとに記載する。なお，石棺内から検出された人骨は細かい小片が多数であり，それらはどの個体に属するか判断ができないものがほとんどである。それらについては人骨部位同定表（表１）に示すだけにとどめる。今回検出された人骨は完全なものはほとんどないが，かろうじて計測できる箇所や推測できる大きさを記載し，他の石棺から検出された古墳時代男女の平均値と比較して示してある（表２）。

なお，本文中の数字の単位はmm，示数は％である。さらに，人骨にはそれぞれNO.のついた取り上げ番号，あるいはアルファベットと数字で示してある区域番号がついており，本文中に記載してある。

２．出土人骨

１号人骨：　大部分は，石棺に埋葬されている人骨のうち，解剖学的配列を概ね保っている２号人骨・３号人骨の足元に集骨されている人骨群である。この個体の骨のうち，明らかに部位同定が可能なものは，成人の左右大腿骨遠位端と左右脛骨および肋骨片しか保存されていない。この古墳（石棺）築造当時の第一埋葬者の可能性が高い。また，この成人１号人骨の他に幼児骨と乳歯が共に検出されている。

下肢骨

左大腿骨（B68）右大腿骨（B126），左脛骨（B162）右脛骨（B163）が保存されている。左右の大腿骨がそれぞれ左右の脛骨の上にのっている状態で，大腿骨も脛骨と同様に後面が上を向いた状態である。左右の大腿骨遠位端だけが保存されている。全体的に大きく，下間窩が幅広い。左脛骨は骨体の遠位半，右脛骨は破損があるが，かろうじて骨体の全長が確認できる。遠位端は骨体部分と分離している。近位端にあたる関節部分は比較的大きく，関節面の辺縁部に骨増殖等は確認できない。骨体中央部の外側面が破損しているので太さは不明である。しかし，近位部の骨体は全体的に太い。しかし，ヒラメ筋線は殆ど発達しておらず，隆起が認められない。左脛骨は破損し，ヒラメ筋線は確認できない。

その他，１号人骨のものと思われる人骨は肋骨片や四肢骨の破片，わずかな頭蓋細片しか保存されていない。大部分の骨片の部位同定は困難である。以上のことから，この個体の性別は，大腿骨および脛骨が全体的に大きく，そのため膝関節も頑丈な状態であるので，男性のものと推測される。また，この個体の年齢は，明確にこの個体に所属する歯の特定が困難であり，年齢推定が難しい。しかし，わずかに残る頭蓋片の縫合が開離していることから考えると，熟年には達していない壮年期までの個体と推測できる。

さらに成人人骨の他に，幼児の左右大腿骨（B128+160・B161）が２点検出されている。骨体周は35㎝程度で，長さは完全ならば15㎝ほどと思われる。したがって，３才前後の幼児のものと思われる。

２号人骨：石棺内において，向かって左側に埋葬されている。保存状況はあまり良好ではないが，おおむね解剖学的な配列を保っている個体である。頭蓋や右上肢骨は細かい破片となっているようである。出土人骨表１の人骨番号Ｂ260台～Ｂ290台がこの個体に属する。

躯体骨：肋骨および椎骨が保存されている。肋骨は左側しか確認できない。椎骨は胸椎の一部と腰椎が確認できる。椎骨の椎弓は殆ど残っておらず，椎体がかろうじて保存されているだけである。保存されている椎体の辺縁部分に骨棘は形成されていない。

上肢骨：左上腕骨（B260）左尺骨（B261）左橈骨（Ｂ262）が保存されている。上腕骨は近位部が破損している。三角筋付着面は半分ほど保存されている。骨表面の風化が強く筋粗面の隆起等の確認はできない。骨体最小径（17.5）は大きく，風化による傷みがあるとはいえ，骨体は太く頑丈であった可能性が高い。尺骨は，両端が破損している。骨体中央部は骨間縁の発達が良好で，前腕筋の良好な発達が伺える。橈骨は，部分的に破損箇所があるが，ほぼ完形（最大長240㎜）状態で保存されている。橈骨粗面は大きく，変形している。辺縁部分に骨棘が認められる。

下肢骨：左大腿骨は遠位端部分が破損している。骨体は太く（体周109.4・体中央矢状径29.0/体中央横径26.5)頑丈である。古墳時代男性平均を上回る。骨頭は大きく，骨頭窩が骨増殖によりなくなっている。右大腿骨（B290），右脛骨（B291）は太刀の下から検出されている。左脛骨は遠位端が破損し，骨体長は25ｃｍ程である。骨体後面のヒラメ筋線はほとんど確認できない。骨表面の風化による傷みが強いことによるものとも思われる。骨体自体は太く頑丈である（横径23.5/最大径29.5)。骨体中央部の断面形は二等辺三角形である。右大腿骨は骨体近位部および骨体の後面が破損している。大腿骨遠位部骨端は大きく，下間窩も広く，男性の特徴を示している。骨体の骨表面にはネズミ等の小動物によると思われる噛傷が多数認められる。右脛骨は破損が大きく部分的にしか保存されていない。

仙骨（Ｂ277）および左寛骨（Ｂ279）がかろうじて保存されている。寛骨では坐骨・恥骨付近が破損しているが，大坐骨切痕の湾入は鋭角で明らかに男性の特徴を示している。

その他の骨：左手足の指骨，踵骨，距骨が保存されている。破損している箇所が認められ，完全な保存状態とはいえない。

２号人骨は，寛骨の大坐骨切痕が鋭角であること，四肢骨が大きく頑丈であることから，男性と推測できる。年齢は，明らかにこの個体の歯と断定できるものがないので歯からの年齢推定はできない。しかし，大腿骨頭窩の骨増殖が著しいのでこのことから50才以上の熟年個体であると思われる。

３号人骨：２号人骨の左側に伸展葬の状態で埋葬されている。保存状態は概ね良好で，解剖学的配列を保っている。出土人骨表１の人骨番号Ｂ200台～Ｂ250台がこの個体に属する。

頭蓋骨：前頭骨から頭頂骨および，後頭骨の一部まで含む頭蓋冠が保存されている。冠状縫合および矢状縫合は内板でも外板でも癒合していない。縫合の走向はやや複雑である。骨表面は風化により傷みが強い。

躯体骨：右側の肋骨が数点保存されている。肋骨すべては完形ではない。

上肢骨：右上腕骨（B236）の両端が破損し，骨体中央部が保存されている。骨表面は風化による傷みがある。三角筋粗面は風化しており，筋粗面の状態は不明である。骨体は強い彎曲もなく，直線的である。また，骨体遠位四半部にネズミによる噛み傷が確認できる。右尺骨（B237）の近位端が保存されている。滑車切痕は広い。尺骨粗面は広く，　状突起の突出は強い。右鎖骨（B231）は骨体中央部から肩峰端部にいたる骨体が保存されている。肩峰端は保存されていない。骨表面は風化しているが，骨体は全体的に太い。

第１表　平戸台８号墳出土人骨表

NO.	人骨部位	特記事項	NO.	人骨部位	特記事項	NO.	人骨部位	特記事項
1	右上顎第１小臼歯		63	右中節骨		123	中（足・手）骨の一部	
2	右上顎第１大臼歯		64	骨片		124	骨片	
3	右上顎第２小臼歯		65	骨片		125	右膝蓋骨	
4	右下第２大臼歯		66	右膝蓋骨		126	右大腿骨	１号人骨
5	大臼歯（下）		67	幼児・上腕骨遠位端		127	腓骨片	
6	左下犬歯		68	左大腿骨遠位体	１号人骨	128	右大腿骨片・№160接合	幼児
8	右舌第１大臼歯		69	踵骨片		130	腓骨片	
9	左下第２小臼歯		70	骨片		131	肋骨片	
10	骨片		71	足根骨		132	骨片	
12	肋骨片		72	指骨片		133	脛骨片	
13	肋骨片		73	距骨		134	骨片	
14	肋骨片		74	右下第１大臼歯（未萌出）		135	骨片	
15	指骨片		75	腓骨体		136	脛骨下端片	
16	指骨片		76	右下第１大臼歯もしくは第２大臼歯		137	骨片	
17	基節骨		77	右上犬歯		138	左膝蓋骨	
18	肋骨片		78	骨片		139	左上第２大臼歯	
19	骨片		79	右下第１大臼歯	ブロカⅡ～	140	左下第１大臼歯	
20	骨片		80	骨片		141	右上第２大臼歯	
21	骨片		81	左下第１大臼歯	ブロカⅡ～	142	左下第２小臼歯	
22	骨片		82	左下第２小臼歯		143	右上側切歯	
23	基節骨		83	頭蓋片		144	左上犬歯	
24	骨片		84	骨片		145	左上第１小臼歯	
25	踵骨片		85	上右側切歯	ブロカⅡ～	146	左下第１大臼歯	
26	右舟状骨		86	上左中切歯	ブロカⅡ～	147	左上第１大臼歯	
27	骨片		87	上左中切歯		148	骨片	
28	骨片		88	下左第１小臼歯		149	骨片	
29	骨片		89	下左犬歯		150	骨片	
30	骨片		90	骨片		151	骨片	
31	左上第１大臼歯		91	頭蓋片		152	骨片	
32	骨片		92	骨片		153	骨片	
33	左上第２小臼歯		93	骨片		154	右中節骨	
34	右上第２大臼歯		94	骨片		155	骨片	
35	右下第１大臼歯		95	骨片		156	骨片	
36	右下中切歯		96	骨片		157	左中節骨	
37	左下第１大臼歯		97	骨片		158	骨片	
38	骨体片		98	骨片		159	骨片	
39	右錐体		99	骨片				
40	骨片		100	骨片		160	128と接合	幼児
41	骨片		101	骨片		161	右大腿骨	
42	右下第１大臼歯		102	骨片		162	左脛骨	１号人骨
43	歯根		103	骨片		163	右脛骨	１号人骨
44	歯根		104	骨片		164	脛骨片一部	
45	歯根		105	骨片		165	脛骨片一部	
46	右下第２小臼歯		106	骨片		166	腓骨	
47	頭蓋骨		107	骨片		167	骨片	
48	顔面破片		108	骨片		168	骨片	
49	左上腕骨遠位端		109	骨片		169	右下第１大臼歯	
50	骨片		110	骨片		170	左下側切歯	
51	骨片		111	骨片		171	骨片	
52	骨片		112	骨片		172	右上側切歯	
53	骨片		113	骨片		173	骨片	
54	椎骨片		114	骨片		174	骨片	
55	椎骨片		115	骨片		175	骨片	
56	椎骨片		116	骨片		176	骨片	
57	椎骨片		117	骨片		177	右上第２小臼歯	
58	指骨片		118	骨片		178	肩甲骨片	
59	指骨片		119	骨片		179	骨片	
60	右第１中手骨		120	骨片		180	右下中切歯	ブロカⅡ～
61	右中手骨		121	基節骨		181	左下中切歯	ブロカⅡ～
62	中手骨片		122	手根骨		182	左上中切歯	ブロカⅡ～

NO.	人骨部位	特記事項	NO.	人骨部位	特記事項	NO.	人骨部位	特記事項
183	左上側切歯	ブロカⅡ～	225	肋骨片		267	肋骨片	
184	骨片		226	右上第２乳臼歯		268	肋骨片	
185	頭蓋骨		227	骨片		269	肋骨片	
186	骨片		228	骨片		270	肋骨片	
187	骨片		229	骨片		271	肋骨片	
188	骨片		230	肩甲骨片		272	肋骨片	
189	骨片		231	右鎖骨	３号人骨	273	肋骨片	
190	骨片		232	骨片		274	肋骨片	
191	骨片		233	骨片		275	骨片	
192	右上第１乳臼歯		234	骨片		276	骨片	
193	左上第２乳臼歯		235	骨片		277	仙骨	２号人骨
194	右上第１大臼歯	未萌出	236	右上腕骨	３号人骨	278	手根骨	
195	下顎骨片		237	右尺骨	３号人骨	279	左寛骨	２号人骨
196	骨片		238	肋骨片		280	左大腿骨	下端破損
197	胸骨柄		239	肋骨片		281	左大腿骨遠位端	
198	椎骨		240	肋骨片		282	骨片	
199	椎骨		241	椎骨		283	骨片	
200	椎骨		242	椎骨		284	骨片	
201	椎骨		243	橈骨		285	骨片	
202	椎骨		244	右寛骨	３号人骨	286	骨片	
203	椎骨		245	右大腿骨	３号人骨	287	骨片	
204	骨片		246	左大腿骨	３号人骨	288	左脛骨	
205	骨片		247	右膝蓋骨		289	左上腕骨	
206	骨片		248	四肢骨片		290	右大腿骨	２号人骨
207	骨片		249	右脛骨	３号人骨	291	右脛骨	２号人骨
208	骨片		250	左脛骨	３号人骨	292	骨片	
209	骨片		251	距骨		293	骨片	
210	骨片		252	足根骨		294	骨片	
211	骨片		253	指骨片		295	骨片	
212	骨片		254	骨片		296	骨片	
213	骨片		255	骨片		297	骨片	
214	骨片		256	骨片		298	骨片	
215	骨片		257	骨片		299	骨片	
216	骨片		258	骨片		300	大臼歯	
217	右上中切歯	萌出途中	260	左上腕骨	２号人骨	301	左下第２乳臼歯	
219	骨片		261	左尺骨	２号人骨	302	左下第１乳臼歯	
220	肋骨片		262	左橈骨	２号人骨	303	椎弓	
221	肋骨片		263	手根骨		304	椎弓	
222	骨片		264	肋骨片		305	乳切歯	
223	肋骨片		265	肋骨片		306	乳切歯	
224	肋骨片		266	肋骨片				

下肢骨：右大腿骨はほぼ完全な状態である。骨体の表面や骨端には部分的に腐食し破損している箇所がある。最大長（441）および骨体周（90）も大きい。古墳時代人の平均値（444）に一致する。骨体は彎曲がなく直線的である。後面粗線は摘んだような形態で，骨体断面は滴状である。下間窩は広く，関節は大きい。明らかに男性のものと思われる。大腿骨から推定される身長は，約164㎝であり，古墳時代男性平均値（163㎝）を上回る。左大腿骨は骨頭が破損している。遠位端にも部分的に破損箇所がある。骨表面は右大腿骨と同様に風化による傷みが強い。後面粗線も不明瞭である。脛骨は左右とも遠位端が破損している。左右とも30㎝ほどの骨体が保存されている。骨表面の風化が強く，骨体の近位部においてはところどころに破損箇所が認められる。骨体は直線的で，前縁部の彎曲はない。骨体は太く（横径20/最大径30），骨体断面は二等辺三角形を呈している。後面ではヒラメ筋線は確認できない。風化によ

第２表　平戸台８号墳出土人骨　四肢骨計測値および比較（mm）

計測項目	平戸台８号古墳		古墳時代人（1938.城）		江戸時代人（鈴木他.1967）		現代人（鈴木他．1967）	
	２号	３号	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上腕骨								
１．最大長			295	255	296	269.7	295.9	272.4
５．体最大径		22.0	22.6	21.5	22.7	19.6	22.4	19.7
６．体最小径	17.5	19.2	17.6	14.8	17.7	14.9	17.7	14.7
６／５．体断面示数		87.2	77.9	68.9	75.6	76.6	78.3	75.1
橈骨								
１．最大長	240		229	208	224.2	199.8	225.1	202.1
４．体横径		16.0	17.6	15.5	16.6	14.4	16.5	14.6
５．体矢状径		12.0	11.3	10.2	11.9	9.8	11.8	9.8
５／４．体断面示数		78.1	68.4	67.6	71.8	68.4	241.5	67.4
尺骨								
１．最大長					242.1	223.4	241.5	218.7
11．体矢状径		13.2	15.5	11.8	11.6	10.5	12.5	11.3
12．体横径		14.5	16.8	13.2	16.2	14.1	16.3	13.9
11／12．体横断示数		91.0	93.4	86.9	79	75.1	80.9	76.9
大腿骨								
１．最大長		441.0	444	384	413.8	377.9	412.1	381.8
６．体中央矢状径	29.0	30.5	27.1	24.2	28.3	24.8	27.6	24.5
７．体中央横径	26.5	27.7	26	23.7	27.4	34.1	26.3	23
８．中央周	92.0	90.0	85.3	77.5	87.2	76.9	83.7	73.8
６／７．体中央断面示数	109.4	110.9	102.3	101.9	103.9	103.1	105.4	107.3
脛骨								
１．全長			342	295	331.2	298.3	325.3	298.3
８．中央最大径	29.5	30.0	29.2	25.5	28.9	25.7	28.7	25.7
９．中央横径	23.5	20.0	20.8	19.0	21.6	20.3	22.8	20.3
９／８．体断面示数	79.6	66.6	80.2	71.3	74.9	72.4	78.7	78.7
腓骨								
１．最大長					327.2	296.1	322.4	301.7
２．中央最大径			16	14	15.3	12.8	14.8	13.6
３．中央最小径			11	9	11	9.4	10.9	9.5
３／２．体断面示数			71.2	67	72.1	73.9	73.4	70.1

る傷みで稜がなくなったと思われる。寛骨は右の腸骨の一部と坐骨が断片的に保存されている。大坐骨切痕の湾入は強く男性的な特徴である。耳状面の辺縁には経年性の変化による骨棘が形成されているが，特に骨増殖が強いとはいえない。寛骨臼は大きく深い。大坐骨切痕の湾入が強く，男性的な特徴を裏付ける形態である。

３号人骨は，四肢骨の形態的な特徴から明らかに男性である。年齢は，骨棘の形成はあるが，骨増殖は弱く，頭蓋の縫合も開いているので，壮年期と思われる。

歯：表１に記載され，取り上げ番号ついた遊離歯は49点である。それを永久歯と乳歯の歯式で示した。

乳歯

v	iv											v	
											iv	v	

永久歯

	2	2			3		3					2	2
7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7
7	6	5	4	3		1	1	2	3	4	5	6	
2	3					2				3	2	4	

歯式の上下の太字の小数字はその下（上）の歯の保存されている個数である。永久歯の中には明らかに未萌出あるいは萌出したばかりのもがある。

さらに，石棺内から一括で取り上げられた３つの歯群について，以下の歯式で示した。

①

	v			3						iv	v	6	
6			4			ii				iv	v	6	

右上顎第２乳臼歯は歯冠がわずかにあるだけで，乳児が１個体あることがわかる。それ以外の乳歯と永久歯は同一の３才前後の幼児１体のものと考えられる。

②

6	5	4	3				1			3	4		
			3	2	1							5	

咬耗がブロカのⅡ～Ⅲに相当する年齢がやや進んだ熟年である。これは２号人骨に属するものと推測できる。

③

			3	2			1			3			6
		iv	iii			i					iv	v	
	v	iv				i	i	ii			iv		
						1							

上顎左第２乳臼歯は歯冠がわずかしかなく形成途中である。この歯式から乳児と３才前後の幼児がそれぞれ１体ずつ保存されている。

以上の歯の保存状態から，当石棺に埋葬されたと思われる個体数は，下顎左第１大臼歯が５点保存され，そのうち未萌出のものあるいは萌出間もないものが２点保存されている。したがって，成人３体と６才前後の幼児２体，合計５体である。さらに，左右上顎第２乳臼歯の歯冠は半分ほどしか形成されていない。この歯は生後６ヶ月～１年程度の乳児のものに相当することから，当石棺には少なくとも６体の被葬者が埋葬されていたと判断できる。

２号人骨：1.右脛骨　2.左脛骨　3.右大腿骨　4.左大腿骨

２号人骨：5.左尺骨　6.左橈骨　7.左上腕骨　8.左寛骨　／9. 10.幼児左右大腿骨

３号人骨：1～5.頭骸骨　6.右寛骨　7.右上腕骨　8.右脛骨　9.左脛骨　10.右大腿骨　11.左大腿骨

３．総括・結語

この石棺から出土した人骨の総数は少なくとも６体と算定された。その内訳は，歯や四肢骨から成人３体である。１号人骨は不明（壮年まで）男性，２号人骨は熟年男性，３号人骨は壮年男性と判断できる。また，１号人骨とともに集骨された人骨群には幼児の四肢骨等が保存されており，その大きさから３才程度の幼児であることがわかった。これは，乳歯の萌出状況とも一致する。

形態的な特徴は，頭蓋は顔面の残りが悪く，眉間の部分しか断片的にしか保存されていない。眉間や眉弓の隆起は弱く，平面的であることは古墳時代人として矛盾はない。四肢骨では，上腕骨の骨体の大きさは普通である。大腿骨の骨体は太く，長さが長く，そこから推定される身長が高身長である。大腿骨最大長から推定される身長は164㎝を上回り，古墳時代の男性平均値以上である。骨体後面粗線の隆起は弱く，縄文時代の大腿骨に見られるような付柱は形成していない。古墳時代人のものとしては普通の形態である。さらに，骨体には彎曲や捻転は全く見られず，非常に直線的な骨体である。２号と３号の大腿骨の形態は良く類似しており，血縁関係があったと判断しても矛盾はないほどである。大腿骨以外の四肢骨や頭蓋骨との比較ができないのが残念である。

総合すると，一般的な古墳時代人として全く矛盾がないが，大腿骨の形態的な特徴から判断すると南関東から検出される横穴墓出土人骨に見られるようにやや高身長であったと思われる。

参考文献

遠藤萬里・北条暉幸・木村賛　1967.「四肢骨」『増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体』　275-406.

鈴木尚　1967.「頭骨」『増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体』121-274.

西原四良　1953.　関東地方人上腕骨の人類学的研究　東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集９.

蛯名忠次郎　1951. 日本人前腕骨の人類学的研究　東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集　５：　其の１橈骨　其の２尺骨.

森田茂　1950. 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究　東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集３.

大場信次　1950. 関東地方人大腿骨の人類学的研究　計測編　　東京慈恵会医科大学解剖学　教室業集３.

城一郎　1938.「古墳時代日本人人骨の人類学的研究」　人類学集報　第１輯

山口敏　1985.「国家成立前後の日本人－東日本とくに関東・東北南部地方－」『季刊人類学』16-３

松崎元樹・鈴木敏弘1989.『赤羽台遺跡－赤羽台横穴墓群－』　東北新幹線赤羽地区遺跡調査会

岩松保・上田真一郎　2003.「八幡市女谷・荒坂横穴墓群における改葬実例」　京都府埋蔵文化財情報　第87号

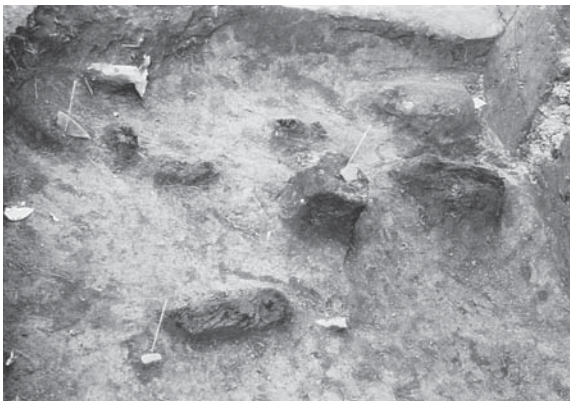
岩松保　2006.「黄泉の国への儀礼―骨を動かす行為」京都府埋蔵文化財論集　第５集　京都府埋蔵文化財研究センター

松崎元樹　2006.「多摩川下流域に見る横穴墓の特質について」　横穴墓のなぞ　大田区郷土博物館

梶ヶ山真里・馬場悠男　2007.「神明上遺跡出土人骨」東京都埋蔵文化財センター調査報告書第214集

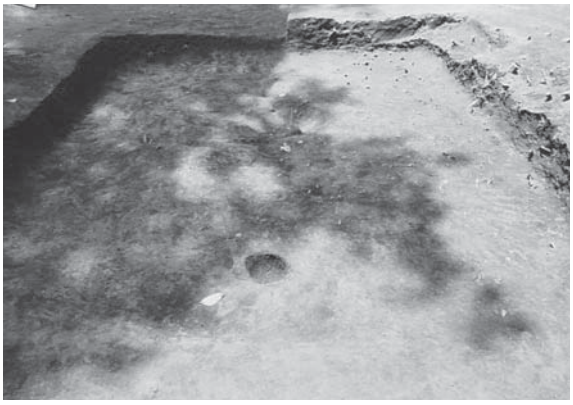
（1）3P土坑完掘状況

（2）8P土坑検出状況



（3）1D住居跡遺物出土状況

（4）1D住居跡土層断面（8T-A'-A"）



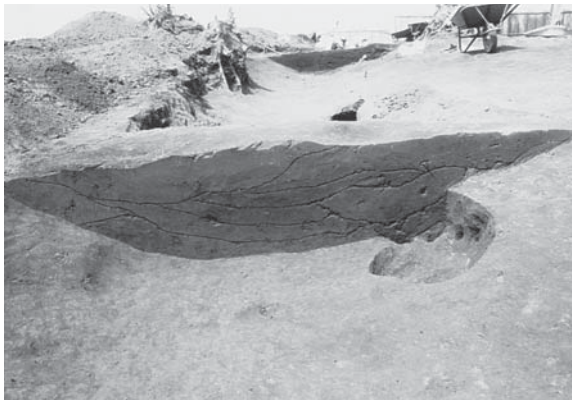
（5）1D住居跡完掘状況

（6）1P土坑土層断面

（7）4P土坑土層断面

（8）1M溝跡・2M溝跡土層（8T-A'-A"）

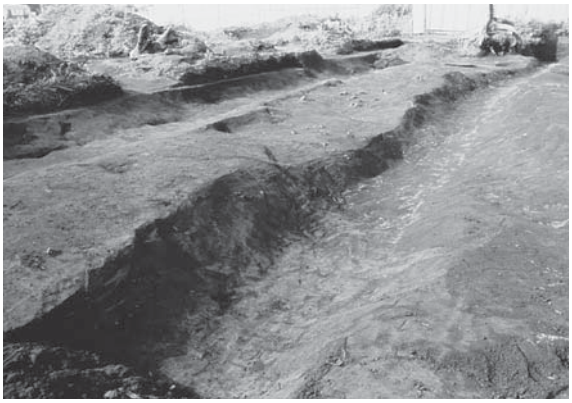
図版2



（1）1M遺跡EE-EE'土層断面

（2）1M溝跡完掘状況

（3）2M溝跡GG-GG'土層断面



（4）2M溝跡完掘状況

（5）平戸台８号墳全景

（6）平戸台８号墳ベルト設定状況

（7）平戸台８号墳周溝検出状況

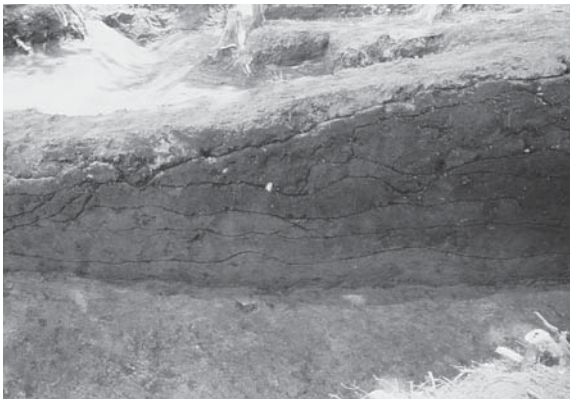
（8）周溝１区

（1）周溝２区

（2）周溝２区No.5土師器鉢出土状況

（3）周溝３区

（4）周溝４区



（5）墳丘A-A'土層断面-1-

（6）墳丘A-A'土層断面-2-

（7）墳丘A'-A"土層断面-1-

（8）墳丘A'-A"土層断面-2-

（1）B-B'土層断面

（2）墳丘B-B'土層断面

（3）周溝・墳丘掘削状況

（4）須恵器壷（No.1）出土状況

（5）石棺蓋石検出状況

（6）蓋石除去後の状況

（7）人骨出土状況

（8）１号人骨

（1）鉄鏃出土状況

（2）２号人骨・３号人骨出土状況

（3）３号人骨-1-

（4）３号人骨-2-

（5）３号人骨-3-

（6）１号直刀

（7）２号直刀

（8）管玉No.1出土状況

（1） ２号人骨・３号人骨出土状況-2-

（2） ２号人骨

（3）石棺外粘土検出状況

（4）石棺外O-O'土層断面

（5）床石検出状況

（6）掘り方完掘状況

（7）8T-P2土坑土層断面

（8）8T-P2土坑完掘状況

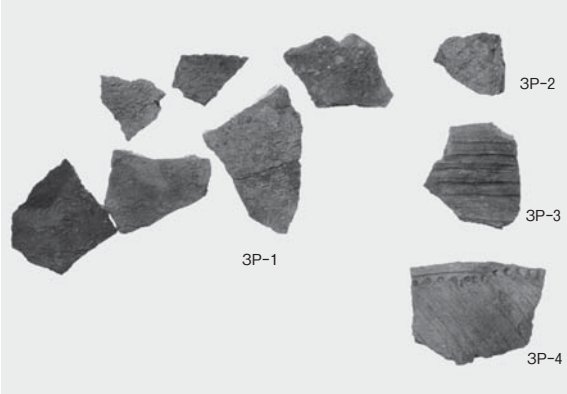
（1）7P土坑A-A'土坑断面

（2）7P土坑短刀出土状況

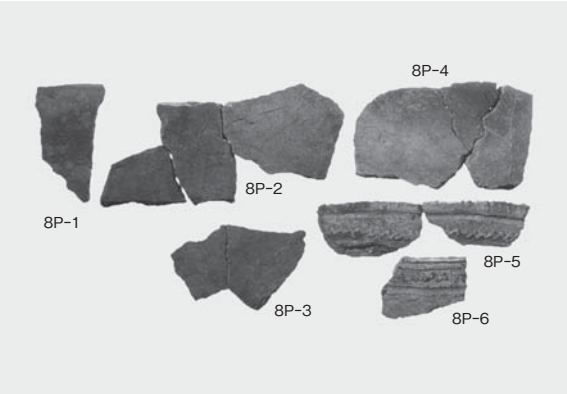
（3）7P土坑完掘状況

（4）5P土坑土層断面

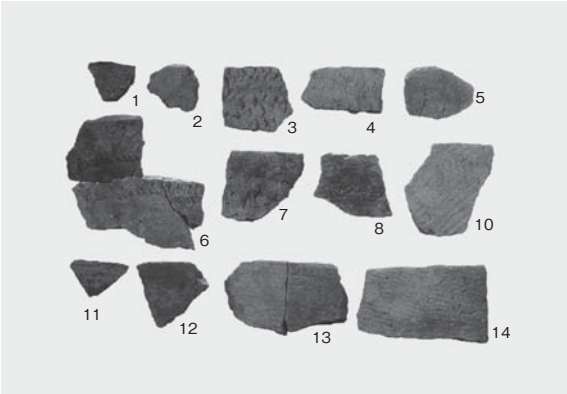
（5）5P土坑完掘状況



（6）3P土坑出土遺物



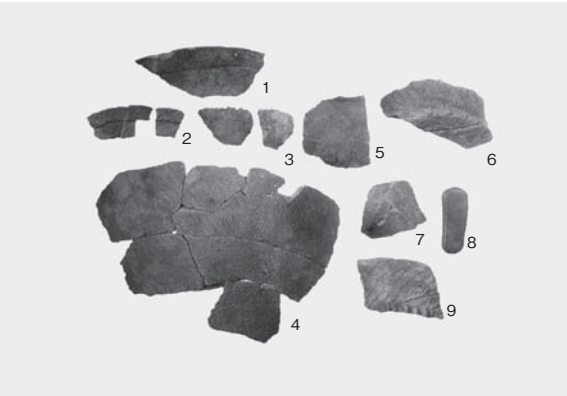
（7）8P土坑出土遺物



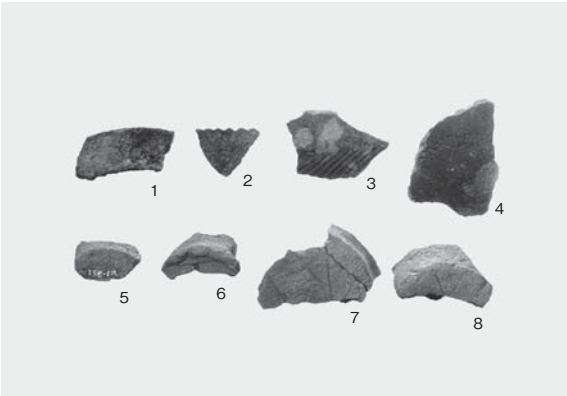
（8）その他の遺構等出土遺物-1-

※遺物のNo.は，実測図のNo.と一致（以下同じ）

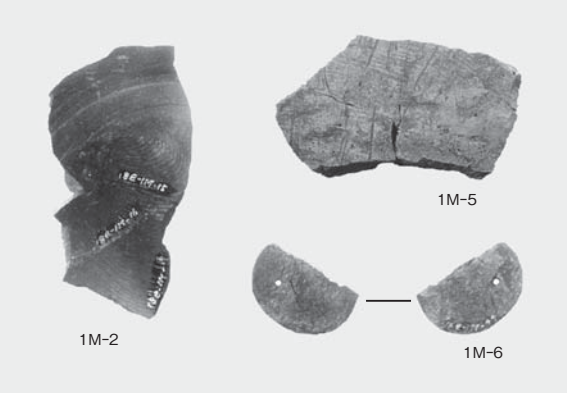
その他の遺構等出土遺物-2-



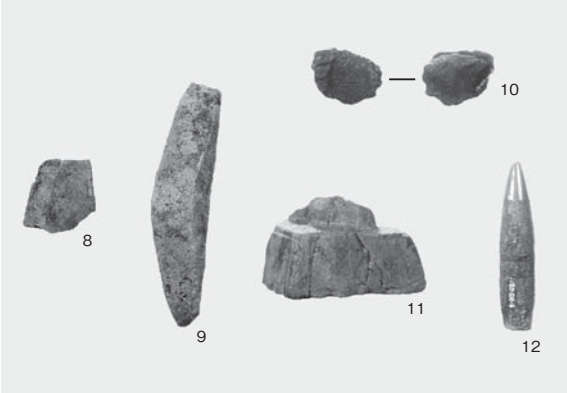
（1）1D住居跡出土遺物



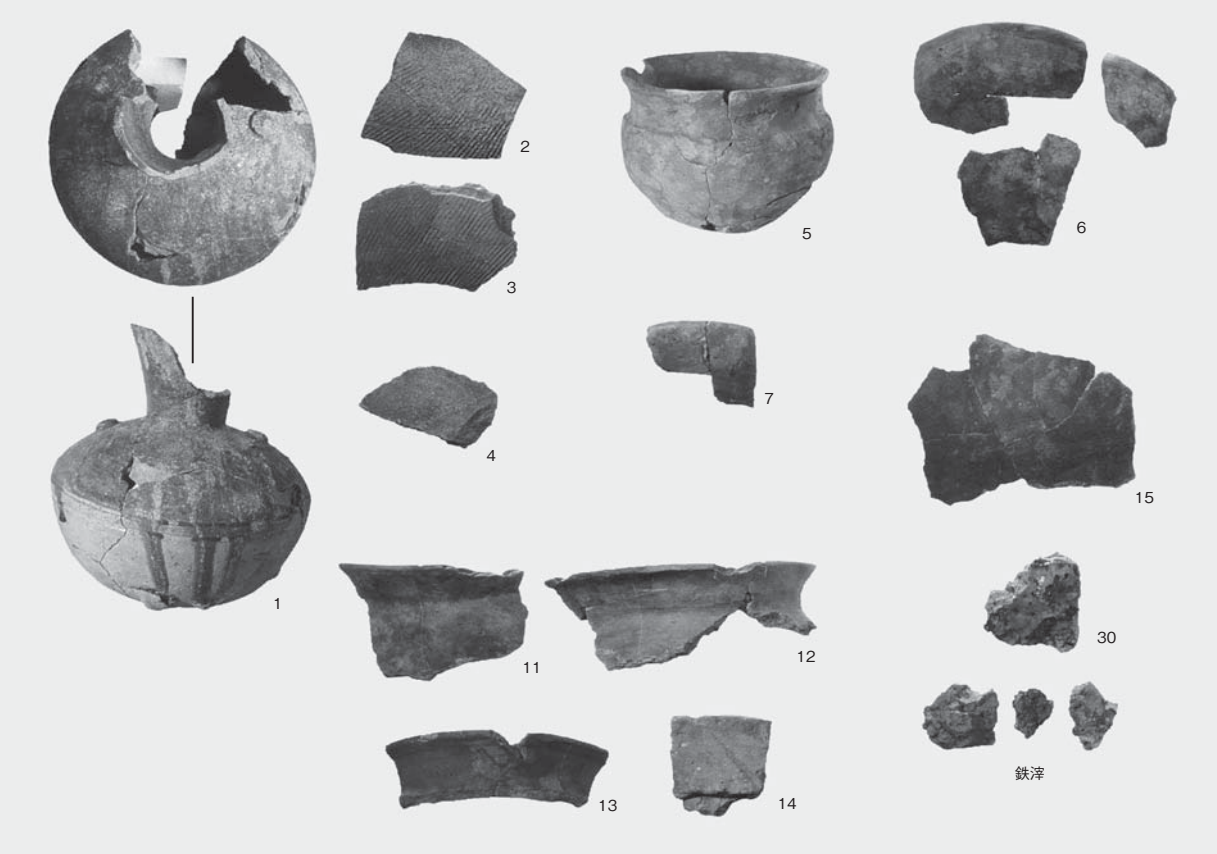
（2）その他の遺構出土弥生土器



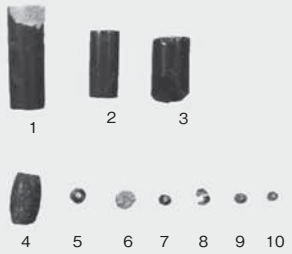
（3）1M溝跡出土遺物



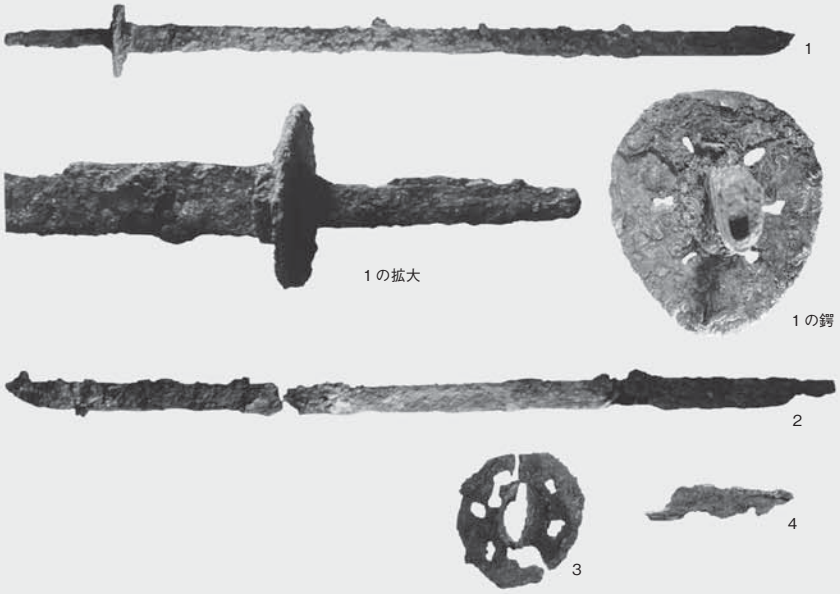
（4）グリッド等出土遺物



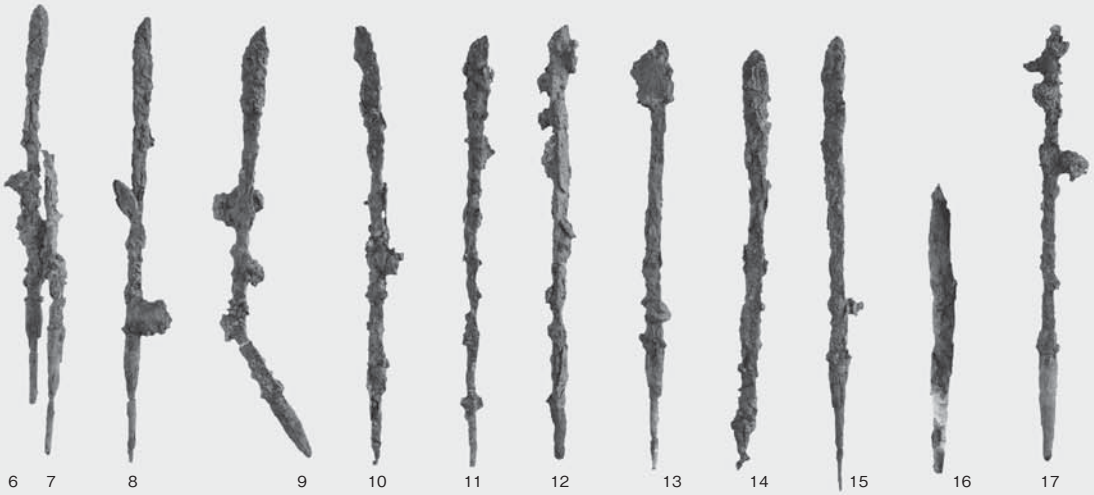
（5）平戸台８号墳出土遺物



（1）石棺内出土玉類



（2）石棺内出土鉄製品（直刀）



（3）石棺内出土鉄製品（鉄鏃）

（4）鉄鏃付着布の拡大

（5）7P土坑出土短刀

（6）5P土坑出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちばけんやちよし　どうちいせきいーちてん・ひらとだい８ごうふん
書名	千葉県八千代市　道地遺跡ｅ地点・平戸台８号墳
副書名	資材置場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	常松成人
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138-２　TEL. 047（483）1151代表
発行年月日	2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
道地遺跡 ｅ地点 平戸台古墳群	八千代市平戸字西ノ上306の一部 ほか	12221	18 19	35度 46分 03秒	140度 ６分 46秒	20080422 ～ 20080813	618	資材置場

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
道地遺跡 ｅ地点 平戸台古墳群	包蔵地 集落跡 古　墳	縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代 近世 古墳時代後期	土坑２基，炉跡１基 竪穴住居跡１軒 溝跡２条，土坑１基 土坑１基 古墳１基，箱式石棺１基 土坑墓３基 土坑１基	縄文土器（前期～後期），石斧 弥生土器（後期） 土師器 土師器，須恵器，管玉，棗玉， 臼玉，小玉，直刀，鉄鏃，人骨 短刀	 平戸台８号墳

要　約	平戸台８号墳は，小型の円墳である。埋葬主体部は，墳丘南裾部に箱式石棺がある。19枚の筑波変成岩類から成り，棺内からは，人骨６体分（成人３体，幼児２体，乳児１体），直刀２振り，鉄鏃11本，鍔１点，管玉３点，棗玉１点，臼玉２点，ガラス製小玉４点が出土した。墳丘から出土した須恵器壺なども合わせて考慮すると，本古墳は７世紀前半のものと判断される。他に，周溝内には埋葬主体部として有天井土坑２基，長方形土坑１基が検出された。有天井土坑１基には，短刀が副葬されていた。 縄文時代は，前期後半～中期初頭及び後期後葉の土器を中心に土器片や磨製石斧などが出土し，土坑・炉跡が確認された。 弥生時代後期の竪穴住居跡１軒が墳丘下から発見された。 奈良・平安時代と考えられる溝跡が並行して２条検出された。

千葉県八千代市
道地遺跡ｅ地点・平戸台８号墳
－資材置場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

発　行　日　平成21年３月31日
編　　集　八千代市教育委員会　教育総務課
〒276-0045　八千代市大和田138-２
☎047-483-1151
発　　行　ＹＡＭＡテック株式会社
印　　刷　金子印刷企画